

特集

夫の貞操

わいふ

逐次刊行物

昭 55. 8. -4

国立婦人教育会館
婦報図書室

特集座談会

●男の特権・不貞

●こわい野菜？

都会地の無農薬農場

●コミック・ライブラリー

連載小説・

●囚われの女たち／山代巴

書きたいひと

考えたいひと 知りたいひと

怒りたいひと

「わいふ」はあなたの雑誌です

あなたの中にあるものを

声にしてみませんか?

あなたは発見するでしょう

同じことを考えているひとが

あそこにも ここにも

いたことを

そして みんなで考えるとき

あなたは もう

一人ぼっちではない

ということを

夏休みには親子でこの一冊を!

工作教室

高氏雅昭著

第1集 B5判変型 第2集
650円 850円

現代っ子は本当に不器用な
力。いや、相変らずの遊びの
天才たち。飛ぶ・走る・跳ね
る。一枚の紙から無限に創り
出されるさまざまな世界をお
届けします。

プレゼントに2冊セットを。
美装箱入 1500円



昔は寿命が短い上に、子どもをたくさん産みましたが、末の子が結婚する頃には、女性の残りの人生はほとんど無くなっていました。ですから子離れとか、母親独自の人生などは考える暇も必要も無かったわけです。

しかし今は、子どもは二人ぐらいで、三十前には産み終えます。すると母親が四十になる頃には、末の子でも中学に入りますし、五十では立派に成人します。しかも女性の平均寿命は八十近くまで伸びていますから、母親独自の人生は三十年、四十年あるわけです。いまの子ども達、あるいは母親が、本当の意味で生きていくのは二十一世紀の社会です。

それなのに古い、昔ながらの子育てにまだわさびていては、時代に遅れてしまいます。女性と子どもの未来を視点において子育てのヒントをこの本からくみ取っていただけたら幸いです。

池木 清

池木清著(文部省特殊教育企画官)

B6判 850円

知的子育てのすすめ

古い子育てに真向から対決する新女性論

(株)行政通信社

〒102

東京都千代田区紀尾井町3-33 ☎03(265)0341 振替東京2-114629

特集 夫の貞操

特集投稿18

座談会 男の特権・不貞..... 江守五夫・谷内真理子・ビヤネール多美子.....26

グラビア・手をつなぐ草の根グループ 2

▽ 《わいふインタビュー》つねに女の視点から 高野悦子..... 4

対話のページ・エコー／ 安達日南子・頓所友枝・鈴木恵子.....10

私の視点..... 小堀たみ子・倉橋祐子.....14

サークルだより38

情報コーナー40

コミック・ライブラリー／田中家のネコ騒動 画・西田淑子.....42
文・和田好子

こわい野菜？③ 都会地の無農薬農場.....46

野菜のシュンを見直そう53

連載小説 路のとう 囚われの女たち②.....山代 巴.....54

おしゃべり62

投稿募集67

編集だより68

表紙・小山田チカエ
表紙レイアウト・江藤文寛
レイアウト・西垣泰子
イラスト・西田淑子・西垣泰子
カット 松本をきえ



「行動をおこす女たちの会」
家裁の調停場面の劇



撮影 松本路子

子連れの母親も安心
子ども楽しく



世界の女性がメキシコに集まり、男女差別撤廃のための十年計画を採択してから早くも五年。第二回の世界会議が七月十四日から三十日までコペンハーゲンで開かれている。



手をつなぐ草の根グループ

— もりあがる新たな連帯のうねり —

「家庭は現代の解放区？」、「わいふ」のコントに会場爆笑



この世界会議に向けて、二十一の草の根グループの女たち約三百人が、六月十四日、東京千駄ヶ谷の区民会館で「八十年女の集会」を開き、コントや劇、コーラスで、日本の女の現状をユーモラスに描き出し、互いの連帯をたしかめあった。

大きいことはいいことだ、という高度成長の爛熟の最中の12年前、僅か椅子席230のミニ・ホールが誕生した。商業ベースに乗らないというだけで私たちの観ることが出来なかった「大樹のうた」や「王家の谷」、埃だらけになって埋もれていた邦画の映画文化史としての再鑑賞、そして音楽、演劇、古典芸能に各種の講座シリーズの企画上映は、若人から老人までの熱心なファンを岩波ホールに定着させている。それは、この道のプロと呼ばれる男たちの予想もしなかったことだろう。

「…（毎月山ほどの総合雑誌を読んで）つくづく痛感したのはミニ・コミの存在意義だった。（……）毎月何百頁という膨大な書冊は実はひどい水ましであり、ミニ・コミこそは何か訴えずにはいられぬ志をもった人の文集であることがわかった。いま日本のジャーナリズムにとってミニ・コミこそが地の塩であるように、こうした催しものの世界においても、ミニ・ホールの存在意義が見直されてよいのではないか」。岩波ホール10周年に当って、「友」の中に記された中野好夫氏の言葉である。

洋洋と優雅におっとり、1人の人間として自分の感性を大切に生きる悦子さんを、私は30年前から知っている。

その彼女に最近グッと「熱き女の視点」が加わって来たように思う。

毎年カンヌで膨大な各国の映画を観て、日本で上映する映画を選ぶ彼女の視点が、昨年は男たちが見向きもしたがいなかった「女の叫び」を断固上映、うなぎ昇りに観客を動員し、広い層の女たちの共感呼んだ。

そして、いま彼女は、許されざる支配行為、犠牲者は常に女であるレイプ（強姦）を真正面から見据えた問題映画、ケベックの2児の母アンヌ・ボワイエ監督の「声なき叫び」の、女たちの手による草の根的な新しい上映方法に熱情を傾けている。

●わいふインタビュー



高野 悦子

（岩波ホール総支配人）

つねに 女の視点 から

● 林 慶子
編集部



男が女の問題を

考えるとき

高野

「声なき叫び」を見て、はじめて強姦の問題の重要さに気付いたの。世の中が取扱ってる態度とゴツチャになって私自身、興味本位、ゴシップ的な受取め方をしていたことを非常に反省させられた。この映画で目覚めたので、どうしても皆さんに見せたいと思って……。

林 普通の配給網というか、街の映画館では上映できないんですか？

高野 そんなの全然ダメ。ポルノだったら別ですけど……日本は興行の世界も男ばかりでしょ。そこに男に都合のわるい問題映画を持ち込むのは、すごく厭がる。女の監督が女の目で撮った強姦の映画はかつてない。男は強姦なんて撮るの厭だから触れない。

だからって、そういう映画が無いかという、普通の映画の中の殆んどすべてに入ってるわけ。

まず、ポルノ。はじめは厭がっているけれど、女はやられたいんだという。(笑)メロドラマでは、素晴らしい女性は処女か

純潔でなければならない、他方パンプ型ってのがあって、二つに分かれてるわけ。それで男は、常に純潔の方を胸を痛めつつ仰ぎ見てるって図ですね。(笑)

西部劇とかチャンバラではどうかと言えば、必ず男が女に襲いかかって行く。(笑)女には性格が無く、ただチヨロチヨロと人形のように出て来るわけです。襲いかかれるための存在みたいにね。そんなのテレビや映画で繰返し見せられてると、ほんとにだんだんそんな気持ちになって行く。

「声なき叫び」は、いま男女が持っている既成概念の中での基本的な間違いを告発しているんです。

林 日本は先進国、文明国の仲間らしいけど、女の問題では断固として後進国ですかね。でも「クレイマー・クレイマー」は話題をさらい、うちの娘なんか感激して二度も観に行ったらしい……私は一度も観に行けないっていうのに(笑)。

高野 あの映画が生れた背景には、女の社長とか副社長とか、決定権を持つところに女がすごく進出しているアメリカの現状があるわけです。ところが、日本に入ってくると、解釈したり評価する人が全部男で

しよ、だから、男のお涙ちょうだいみたい、なことになってしまふ。

林 “亭主と子供を犠牲にして、どこへ行くこうとするのか？”女よ現実を見つめよ、なんて、次元の違う話になってしまふ。(笑)

高野 メリナ・メルクーリの「女の叫び」の時もつくづく感じたの。少くとも女の問題に関する批評は女でなければ……。

林 男たちはなんて批評してました？

高野 ギリシャ悲劇と現代の問題が重層的にどうのこうの、肉体の深層から侵入する異形な力、虚実が溶解し次の瞬間無に帰するのが美しい(笑) 私なんかチットも分らない。芸術論も結構なんです、それだけで全部が覆われてしまふ。

林 澤地久枝さんが朝日新聞で書いた批評で、はじめてピタッと来ましたね。

高野 男の批評家だって素晴らしい方、沢山いらっしやる。けど男が女の問題を考えようとすると脱線しちゃうのね。底に貫く精神は一体何だろうという大切な視点が男が見ると消えちゃうわけですよ。私がメルクーリさんに直接会って話を聞き、これは「女の叫び」だと思つて帰つて来たら、題名が恐ろしいって言う。「はかない情熱」

にしようって(笑)。でも私は「女の叫び」って頑張つたの。とても大変だったのよ。

十年後の

私が見えて……

林 私たちが新制大学一期生として卒業したのが一九五一年。敗戦六年目の新憲法の下、さあこれからは私たち女がって、すごい使命感みたいなもの抱いて社会に飛び出したって感じで……日本によく開放が出来はじめた創成期で、私はNTVの制作部に入社したわけなんですけど、あなたは東宝でしたね。

高野 ええ。女子大で南博先生の下で、メディアとして映画をテーマに選り、顧客調査してたから……。

林 私は演劇。上は帝劇、歌舞伎座から浅草六区、場末のストリップ小屋まで、一年間入りびたりに顧客調査してた。(笑)

高野 私、しばらく学校サボってたのよ。出て来たら、テーマの良いものみーんな取られちゃって。(笑)はやかたら婦人問題取ったわよ。たった一つ日本映画ってジャンルが残ってたわけ。十九のその時まで映画なんて見たことない。(笑)たまたま日本

映画の黄金時代にぶつかって、観る映画一つ一つに感銘し一年間ガムシヤラに映画みて、気付いたらドブブリ映画に入り込んでいたってわけ。それで東宝に入社したの。林 それが、どうしてフランスへ？

高野 入社して置かれたところは制作本部で映画を作るところ、私も映画作りに興味持ちはじめた。だから撮影所に行つて助監督にさせてって言つたら「女はダメツ」って。(笑)男ならやれるけど女はダメって言われたことが一つの理由。

もう一つは、先輩の女性たち、当時四十歳位、かなり優秀だつて言われてたその方たちが、恵まれない仕事しているわけですよ。むかし宣伝部なんかでバリバリ仕事していた彼女たちに世話になった男たちがみんなエラくなっている。女はヒラのまま。すると男たちはそういう女の人に命令しにくいわけ……結果として彼女たちは干されてしまつてる。私なんか全然優秀じゃないから、なおさら十年後の私が見えたとわけ。

サラリーマンになって三年位から悩み始めたの。大会社に入つてエスカレーターに乗る男と、乗せられない女との差が年と共に

に大きくなる機構の中で、たった一つしかない私の人生を我慢して行くなんて……。

二十八歳からの 再スタート——□

林 先が見えたって時、殆んど日本の女たちは結婚へと雪崩れ込むんだけど……。

高野 それが、いまだかつて結婚したいって思ったことない。(笑) 母は奈良女高師を出て、三つ年下の父の学資を出していた人。父が満洲の、とんでもない奥地に転勤になって、教師を続けようにも教える学校さえない。敗戦で母と姉妹三人、満洲から父の郷里の富山に引揚げ、父が音信不通の三年間は姉が母を助け私たちの面倒みてくれた。学問させるなら、一番戦争っ子で勉強してない私をつて、母の秘蔵のレコード売って女子大に入れてくれたんです。母も姉も結婚を後悔してるわけじゃないけど、仕事しなかった気持の強い人たちでしょ、そういうのを見てたから結婚が逃避の場所と私には思えなかった。でも、もし下に弟なんかがいって、あんな憎たらしい姉貴がいつまでもいちや困るってことだったら別でしょうけど……。(笑)

私が、映画監督になりたい、フランスにいい学校があるから行きたいって言ったとき、皆さん親切に私のため思ってとめて下さった。(笑) でも母や姉たちは、やってみなさいって……。

東宝のサラリーマンを五年半して、パリのイデック(高等映画学院)に留学したのが二十八歳のときでした。

林 私たちの女学校時代は敵国語なんて勉強するのは非国民、って雰囲気だったし、十五歳からは学徒動員で朝から晩まで軍需工場で働いていたから英語ですら全然勉強してない。大学でやったソシオロジイなんか、ただ辞書と首っぴき(笑) あなたは仕事しながらフランス語勉強なさったの？

高野 全くゼロ。(笑) 行ってびっくり、たちまち十二キロやせちゃった。(笑)

ある日、 ある時、突然に——□

林 日本の大学でかなり語学やった人でも留学して卒業するまでにドロップアウトするって聞くでしょ。だからフランス語のフの字も知らないで、なんて信じられない。高野 もう一度しろって言われたら出来な

いけど、逆説で私ができたんだから誰でも出来るって思ってるの。だって私ほんとうにナマクラな人で、外国語嫌い……だけど自分のやりたいことをやるためにはフランス語ができなければ目的が達せないとき生じる迫力ですよ。火事るとき、おばあさんがタンス背負うでしょ。それと同じ。

でも夜中に涙がホトホト出るわけよ。羽根の枕の裏側まで濡れちゃって……だけど恨む人は誰一人いるわけでない、自分が頑張ればいいだけのこと。

とにかく一日に五十づつ単語覚えたと、千五百の単語覚えれば何でも出来るって言われたから……。

林 だって、やれ女性とかやれ男性とかフランス語は文法がやたらややこしい。

高野 でも、小学生が勉強する程度の易しい口語をきっちり覚えれば、あとは専門語だから。例えばジョルジュ・サドル先生の世界映画史なんかも日本語訳では知っていた。その先生自身が教室に来てしゃべってる。何をしゃべってるのか分らないけど、シャブランって言葉が出ると、ああチャプリンのことしゃべってるなって(笑) 日本語の文章と重ね合わせて、分るわけ……

…単語一つ分ると想像はつくんですよ。

林 どのくらい経って、フランス語分るようになってました？

高野 三カ月から半年ぐらい。ピアノなんかでも壁にぶつかって絶望的になる、それがある時パッと飛躍するって本当ね。ある日、ある時、今の今までキュキュキュチチって鳥の啼き声に聞こえたフランス語が突然、人間の言葉に変わったの。ほんとうに突然に……その時からあまり成長してないかも知れない。(笑)

職場が違っても
想いは同じ

林 それから三年、イデックをトップで卒業なさってから十年間フリーで？

高野 六二年、日本に帰って来て、フリーで演出して行こうと思ったら、とんでもないってことが分って……それでは脚本をと、最初はTBSの「お母さん」「東芝日曜劇場」やって、NTVの「愛の劇場」、フジテレビの「一千万人の劇場」の第一回をやったり……そしてNHKの「芸術劇場」。東京オリンピックの年、二年かかってようやく「バリに死す」の演出をフジテレビで

したんです。初めての演出でした。

林 客員演出ね。今は外部発注の番組が多けれど、当時は局以外の人の演出などなかった。私の頃は全部生番組。五九年にビデオテープなるものが出来て、NTVでは始めての一時間ドラマ「汚れた手」を製作演出してビデオに撮り、私がテレビを去ったのは三十歳のときだった。五四年から五八年にかけてのテレビ界は、やりたい企画、表現したい演出など自由にやれたし、男女差別なんかは全くなかったのよ。制作部には女は二人だけだったけど……。一週間四本の番組持ってたから、サラリーマンの亭主と顔を合せる時がない。日曜日、夜は私の一番忙しい時、朝は寝てる時で……(笑)

昨年、開局のときからラジオ・テレビの報道番組制作をずっとなさっていたTBSの新井和子さんが「わたしの民間放送史」(評論社)って本をお書きになった。それ読んで、涙、涙で頁が濡れちゃって……。だって私が自分のことばかり考えてテレビを去った直後の六〇年あたりから、マスコミ界の管理体制が強化され始め、女がどんどん疎外され差別されて行く状況が克明に彼女の仕事を通して描かれているんです

もの……。

高野 職場は違っても、私たちジェネレーションの想いは同じねえ……。

好きな男も

怒り嫌いに

林 東宝やめてバリへスタートしたのが、二十八歳、そして岩波ホール総支配人として再スタートしたのが三十八歳ってわけですね。

高野 ほんと、脚本作家やめる気なかったのよ。ようやく食べて行けるようになり、外国にも仕事ができ始めて……。

でも、しばらく日本の芸能界の中で仕事したでしょ。そこでは、自分のやりたいことと実現させるまでに九割のエネルギーを消耗してしまふ。あっちでは「女だからダメ」こっちでは「フリーはダメ」。

日本では誰が悪いのか分らないけど、会社ダメと言うのかスポンサーか、もっと違う何かか、とにかく到るところに壁がある。すごく馬鹿げてる、そういうエネルギーを全部創造に使えたらとてもいいことなのに……だから、イイって思ったらスグ出る場所があるなんて、すごく素的だと思

●女の叫び●



ったわけ。ここで何をしてもいいって言われたことが私の気持をとらえたんです。

林 あなたは昔から自分の感性を大切にしておいて、男に迎合しなかったわね。

高野 女子大時代、新聞の編集長やってたでしょ。そのころ伝統的に男の大学の新聞部の連中と合同でしごとをしなければならなかったの。なぜか男は私たちに指示を下したがるし、井が転がったり、さこねしたり……そういう雰囲気がいっぱいでした。

私、男の人と同じやり方で何かするの学生時代から生理的に好きじゃなかった。

林 私なんかイヤだと感じても、その感じを抑えて男なんみにという仕事のやり方だった。自分自身が女の目で見えて考えて、創って行くことの大切さを本当に痛感し始めたのは七〇年あたりからかしら……。

高野 私はただ成り行きで私のやりたい事をやってきただけ。母が家の中のこと完璧にやるのを見ると私には到底出来ないから、すごく尊敬しちゃう。

“結婚しよう”って人が現れた時なんか真先にお掃除どうするんだらうって思ったのよ。そしたら“僕、お掃除しなくても平気です”って、途端にその人、大嫌いになっちゃったの。(笑)だって私、綺麗なのが好きなのに。その人と汚く住んでる位なら住まない方がいい。

林 あら、プロポーズした男性が沢山いたわけね。

高野 いないと言ったらウソになる。(笑)或る人なんかは、映画監督なんか止めて下さい。物書きだけなら家の中で出来るじゃないですかとか。人が一生懸命していることをやめろって言う権利がどうしてあるのかしらって不思議になって、好きだった男も忽ち嫌いになってしまうのよ。(笑)

女の問題を

世界の女と

林 これからカンヌに出發なさるわけだけれど、どの位、映画ご覧になるの？

高野 理想的には一日七本。二週間て七十本位。カンヌからソ連のタシケントに廻ります。タシケント映画祭は、モスクワと一年おきにあり第三世界と言われる国、大体七十五カ国の私の注目している国々の映画祭です。タシケントからグルジア共和国に行こうと思うの。素晴らしい女の監督さんがいらっしやるので会いたいと思って……そこからモスクワにもどって北京に行って六月下旬帰ってきます。

林 新しい、いい映画探して来て下さい。

高野 ええ、いろんな人と知り合って……いま世界中で女の問題考えてる。私たちが第三世界の人は関係ないって思っていると、あちらの人もそう思うのね。私たちの足もとをどうするかって時に、足もとの問題を広い視点で視つめることも大切だと思ふの。

(まとめ) 林 慶子)

再度

“子供は学校をダメにしない？”



島根県松江市

安達 日南子

一六三号の特集テーマ「学校が子供をダメにする？」に対する私の原稿「学校は子供をダメにしない？」に風間さんより反論をいただき大変光栄に思っています。おっしゃることはいいちいもつともな事ばかりで、私も反論はありませんが、二、三補足させて下さい。

まず第一に風間さんは、私のタイトル「学校は子供をダメにしない？」から（？）を取ってしまったようですが、（？）があるのとはいいくとはニュアンスが大きく違って来ます。特集テーマにも「学校が子供をダメにする？」と（？）をつけて含みのある表現になっているのと同じで、私のタイトルの（？）も「学校だけが子供をダメにするのではない」という程の意味で（？）をつけています。だから勿論当然のことながら「学校は子供をダメにしない」などといった断定的幻想は抱いておりません。

第二に、おっしゃっていることはいいちいもつともなことばかりでおそらく多くの教師たちも建前としては風間さんのおっしゃることはよく解っていると思います。その建前に対しては「……それはそうですけれど……」といったニュア

スでしか答えられないように思います。（この言い方に対する風間さんの反論は、勿論推測できます。）風間さんの文に“……親の私が、教育をよくするために何をすべきか？をたえず探り、仲間を求めて動いている。それだって学校側からは仇敵のように言われたこともあった”とありますが、同じ教職にある者としてその間のニュアンスは手に取るようにわかります。おそらくそこに建前論と現実論の葛藤があり、様々に屈折した教師の心理が隠されているように思います。

第三に学校が担う任務ですが、風間さんは勉強より、子供の情操面で学校が果たす役割を重視しておられるように受け取りましたが、そもそも学校が果たすべき役割とは一体何なのでしょう？たとえば、ドイツなどでは担任制、クラス制といったものはなく、生徒は純粹に学問を身につけるためにのみ学校に来て、各教科の先生の教室にカバンを持って移動し、従って教師と生徒の精神的結びつきはあまり問題にされていらないことです。ドイツでは教師の任務は完全に学問の伝達のみとなり、しつ々に関わる情操的、精神的成長は家庭の任務だとされているようです。

不合理に満ちた——従って情緒的精神生活を尊ぶ日本では、とかく学校の任務などについても明確さを欠くように思います。学校が担う任務としてたとえば合理的ドイツのあり方がいいのか、情緒的日本のあり方がいいのかは勿論断定できることではありませんが、しかし日本の学校のあり方として、現状では学校があまりにいろいろなことに首を突っ込みすぎているような気がしてなりません。なかには親に対する

越権行為まがいのことさえしているように思います。お国柄とは言え、家庭に返すべきものは返して、もう少し合理的に学校の任務が規定されてもいいように思います。学校だけが教育の場ではないのですから。

「幼稚園は必要か」

を読んで



東京都葛飾区

頓所 友枝

我家の娘は、今年幼稚園の年長組になります。幼稚園に何故入れたか——早く集団社会を体験させたかったからです。

長女の下には、今年四歳になる次女と二歳になる長男がおります。住まいも団地とあって、決して友だちがいらないのではありません。しかし、同じ年令の子は昼間は誰もいません。皆、保育園なり、幼稚園なりに通っています。私は、学令前の子供に必要なことは、遊ぶことにあると考えています。しかし遊ぶ相手がいつも二歳年下の妹であったり、また独りで遊ぶことを好みません。今この時期に住む場所も、家も違う人間が寄り合う集団の中で、どうやって楽しく遊ぶかを考える場を、与える必要があると思っています。今まで育った環境が違うのですから、自分の都合の良いようにはいかなることもあるでしょう。また中には元気な子がいて、ぶたれ

たり、いじわるする子もいることでしょう。しかしそれは幼稚園に限られたことではない。いつになっても人間関係はついてまわる、いやいつの世代にも人間関係をなくしては、生きていけないというのが、事実でしょう。

独りではない集団なので、最低のルールは必要になることでしょう。それを画一的と、とられるでしょうが。

ある本で集団の“力”について読んだことがあります。まだ一歳にもならない子が、いつも一定の時間になると泣くのだそうです。保育者が気をつけて見ていると、その子が泣く時間は遊び時間で隣の子が、這い這いしているのを見て泣いているようなのだそうです。今まで這うことをしなかったその子には、まだ練習もさせてなかったのですが、隣の子を見て自分も動かしたいが、思うようにできずに泣いていることが分り、手を貸して練習をさせてやると、びっくりするほど早く這うことができるようになったということです。

集団には、親や家族が懸命になっても、してやることの出来ない“力”があると思いました。より多くの人の中で、多くの体験をして、自分で選択する力を持つ人になって欲しいと願っています。また集団の中でも、何もかも他人と同じという訳にはいきません。集団の中だからこそ、他人との違いを発見できるのではないのでしょうか。私も決して理由なくして他人と同じにする必要はないと思うし、集団の中でも、選択する自由はあるし、集団の中で他人と比較するしないは、親の態度にあると思います。毎月本を買おうとか、いろいろな用具を揃えようとかいう時、他人と同じでなければかわいそうと



四方愛子さんへ

大阪府茨木市

鈴木 恵子

毎日の生活がカサカサとささくれだち、あまり心のゆとりなどない実生活を送っていれば、なおのこと『ユーモア……表面的なおかしさとか笑いではなく、自分と他者との差を適確にとらえつつもそれを肯定的に受け止めることのできる余裕……がほしい』と私も思います。しかし、実際はとんでもない、無理な注文です。

人混みで足を踏まれ、痛くて耐えきれないというときに、

考えるのは、子供でなくて、親の方なのではないでしょうか。個性的な人間になるということは、独りで時を過すことと同�なのでしょうか。

実は私も幼稚園については、教育内容についてまで詳しく調べなかったのですが、広い園庭で、のびのび遊ぶというのが、モットーである幼稚園を選んで、入園させました。一年経ち、幼稚園の内情を知るうちに、園長といえども、一幼稚園の経営者なのだと感じるようになりました。私立という関係で園長の胸一つの方針で、先生も父兄も動かなければならない面もあります。しかし集団の中で、遊ぶ機会を子供に与えるという点の方が、子供にとってより多くのプラスになると信じて、下の子も幼稚園に入れようと考えています。

どうしてにつこり笑って、「私の足を踏んだのは、どなたですか？ どうして踏んだのですか？」と、余裕を持って話などしていられますか？ まず最初に「痛い！ 誰かしらないけどこの足をどけて」と叫ぶ。話はそれからです。たとえ足をどけてくれたとしても、まだ痛みが残っていれば、ついブツブツとうらみごとの一つも、ぐちの一つも出るというものの、それを女性特有のと言うなら、女性の方がどうしても踏まれることが多いからでしょう。

踏まれても痛いと言わない人が多い。いや痛いと感じなくなってしまう人が多い。そして、痛いといっても、そんなことはないはずだと言って耳をかさない人も多い。私はまず、痛いと言うことから始めたいと思っています。

「女の熱気が……」のレポートをわいふに掲載するのは不適當だとは言っていない。いや言いきれないものかしさを感じると言った方が当たっているかもしれない。だから、編集部は読者に何を感じ、何を考えてほしいと思ったのだろうかという疑問になったのです。そして、わいふは読者から離れた感じがするのではなく、読者の一人である私から離れた感じがした。そういう考えの読者がいるということを告げたかったわけですね。

七年間住みなれた千葉を離れ、夫の転勤先大阪へ転居して三ヶ月、はじめての杜宅暮しで、何かと人間関係難かしいときいていたが、わいふの手がかりに本音で話し合える友人ができました。わいふの誌面が「肩ひじはらず、前向きで明るい」ことを同じように願ってやみません。



心のこもった

手作りの味

荻窪 (有) す み れ 家

杉並区荻窪 3 の 20 の 10

電話 398-5877

(上段)

魚の香味焼	吹き寄せ風
若鶏のつつみ焼	炊合せ
海老姿揚しんじょう	
牛レバーのクレープ	秋 茄 子
入り	み そ 焼

(下段は秋のたきこみ御飯)

●秋の二段重……千円

毎度お引き立てを頂きありがとうございます。七月二十一日から八月三十一日まで、すみれ家も夏休みをとおり、ゆっくり静養して秋にそなえたいと思います。九月は味覚の秋です。季節を盛ったお弁当は皆様のお集りをより一層楽しくします。お客様の顔を思い浮かべながら献立を作り、おいしさをいつも心をこめて作ります。

秋の試食会御案内

前号でお知らせした試食会は、お陰様で好評にスタートを致しました。

●第四回 九月十九日(金)

秋のお弁当(二段重) 千円

●第五回 十月三日(金)

松花堂弁当 二千五百円

(柿の葉寿しを使って秋らしい献立を致します)

●第六回 十一月七日(金)

三千円

(洋風おもてなし料理です。ホームパーティの御参考にいかがでしょうか)

●場所 杉並公民館(荻窪駅五分)

●時間 午後一時～三時

三回共御出席の方は六千円です。ご出席の方は電話でお申し込み下さい。二十名様で締切ります。

身近な問題見直そう

東京都中野区

小堀たみ子

「チャイナ・シンドローム」という映画をご存知でしょうか。スリーマイル島での原子力発電所の事故を先取りしたとして、一時マスコミにも取上げられたことのある映画です。この映画は、発電所の部品の欠陥を発見し、改善しようと動き始めた技師が簡単に抹殺され、彼は気が狂っていたと処理されてしまうことを通じて、原子力発電所の事故の恐しさを訴えると共に、利益のためにはなりふり構わず、といった企業態度を激しい怒りを持って告発した映画でした。

実は私の身近で似たような事件があったのです。対象は原子力ではなくガスでした。規模こそ違え、ガスも多くの人命を一瞬に奪い去ります。しかも場所は新宿の大きなマンションでした。購入したばかりの湯沸器が使用するたびに強烈なガスの臭いを発散するのです。訴えに対し十人程の検査員が来ても異常なしとされ、しかもその間に三年に一度の定期検査さえあったのです。七十日後に初めて本体を調べた検査員によって、やっとガス漏れが確認され、修理されました。七十日もの間主婦の訴えは無視され、あげくノイローゼ呼ばわりされるといっ

た有様でした。

しかも、今だに原因は不明のままです。（この主婦は、ガス会社が自社の都合のため原因をごまかしているのではないかと疑っています）その対応ぶりに「人の命を何と知っているのか、使用しないようにしていたから無事だったものの、事故でも起っていたらどうするか」と腹を立てたこの主婦は、一人で消費者センターをはじめ、通産省から議員会館にまで出掛けていき、ガス会社を相手に戦いを展開したのです。生まれて初めての事ばかりに彼女は疲れ果て、眠れぬ夜が続いたと言います。

その間、購入先の営業所をはじめとするガス会社の対応は「まるめ込み、簡単に処理してしまおう」といったもので、原因の追究、何故幾人かが調査しながら発見できなかったのか、といった根本問題を解明しようとする態度からは程遠いものだったそうです。

「お金が欲しいんじゃない！人の命がかかっていることに対して、あまりにもずさんな態度にもう一度ガスの取り扱いへの厳重な注意と検査の仕方の改善を要求しているのだ」と訴える彼女の怒りはますます大きくなりました。

今、詭状を取ったとはいえ、彼女のくやしさと苦労が報われたとはとても思えません。爆発してしまえば現状

が把えにくく、結局使用者の責任になるといいます。今のような皆さんの検査方法では、私達はいつも爆発の危機にさらされているといつて過言ではないと思います。

女だからと馬鹿にされ、訴えても「この商品は絶対大丈夫、奥さん神経質すぎるんじゃないか」とノイローゼ呼ばわりされながらも、彼女は一人でこの理不尽なことに立ち向い、相手から詫状を取り、「検査のやり直し」をさせるまでに至りました。私達は、企業の利益追求のための黙殺に「言っても仕方がない」とあまりにも慣らされたのではないかと思います。

この事件を通して、私は、とにかく納得できないこと

▼私の視点

に対して声を上げなければいけないと思いました。そうでなければ、ますます社会的に力のあるものが有利になり、命の軽視が広がるのではないかと、思うのです。私はこの主婦の努力に敬意を表すると共に、このことを一人でも多くの人に知ってもらいたい、そして一人でも多くの人が「仕方がない」としている身の廻りのことを、もう一度見直すきっかけになればと思いました。一人一人が改善しようと努力しはじめることによって、孤立感におち入ることなくもっと動き始めやすくなるのではないかと思います。大変なことですがこの主婦のようにあきらめることなく訴え続けることだと思っています。

私の視点▲

▼私の視点

マンモス予備校浪人軍団

東京都渋谷区

倉橋 祐子

私は一年間、都内でもマンモスで有名な予備校に通いました。千人以上収容できる教室で、教師はマイクを、生徒は双眼鏡まで持参して授業を行うのです。学期の始めは補助椅子がズラリと並び、それでも廊下にあふれるほどの人間の数でした。というのは、途中で来なくなる

人を計算にいれて定員以上を受け付けるからなのです。

休み時間は、教室から教室への大移動です。一クラス三百人〜五百人が一度に数十クラスへ移動するのですからたまったものではありません。朝の通勤ラッシュとはわけが違います。左を向いても右を向いても「浪人」しかないのです。参考書やデル単がぎっしりつまったカバン（中にはリュックサックの人もありました。）をぶら下げ、疲れ切って、どんよりした目をして、もみくちゃにされながら、目的の教室へと進むのです。始めのう

私の視点▲

ちは、慣れずにおしつぶされそうでしたが、次第に人波にのるコツを覚えしました。

人気のある教師の授業は特に大変です。席を確保するために、数時間前からうねうねと列を作って並んだり、前の授業の人に頼んでノートをおいてもらったりするのです。席取りの苦情が出て、予備校側がそれらのノートを回収することもありました。定員以上を受け付けておきながら、壁には「席取厳禁」と黒々と書かれた紙がはられていました。

申し込み受付の初日は、始発電車で来て並ぶ人や、徹夜で並ぶ人が多数いました。講座によつては、初日の午前九時にはしめ切りとなるのです。その講座をとったからといって合格する保証はないのですが、みんなが並んでいると不安になってくるのです。

私自身は怠け者ですし、そうまでして講座をとることに屈辱を感じていたので、始発で来て並ぶようなことは、一切しませんでした。でも、入試のさし迫った冬期講座の申し込みの時は、不安と雰囲気を手伝って、午前中一時間以上も並びました。駐車場一面に並んだ人々の熱気と、秋のまだきびしい日さしの中で、立ちくらみがしそうでした。そうまでして並んでとった講座は、結局、冬期講習中もしめ切りにはなりませんでした。この時ほど自分がみじめだったことはありません。屈辱感と切なさで一杯でした。巨大な予備校が大きな口をあけて聖徳太子を食べては、あはあはと笑っているようでした。

教室内の机と椅子は、隣の人との間はほとんどなく、肩がふれ合うほどでした。一つながりの机なので、一人でも貧乏ゆすりを始めると、全体にピンピンと響くのです。字がうまく書けないので、チラッと顔を見たり、咳払いをしたこともありましたが、おさまってもほんの一時のこと、あいかわらずピンピンと私の心に悲しく響きわたるのでした。貧乏ゆすりまでが浪人の特許とは思えませんがとにかく多かったです。

本科生は週一回、校内模試を受け、毎月一回全国模試が行われます。秋には、慶大・早大・東大模試が行われます。コンピュータで志望大学の合格パーセントがでて、カタカナで、シボウヘンコウの必要ありとか、ボーダーラインとでるのです。その他、偏差値及び高校、都道府県・全国別の順位がうちだされるのです。更に成績優秀者氏名が、ズラッと競馬馬のごとく並び、印刷されて一冊にとじられます。親の許には年二回それらの模試結果の総集が一枚にまとめられ、送られます。これによって、我が子のできばえを知ることができるのです。

我々受験生は、偏差値中心主義のシステムにのめりこんで競争しながらも、どこか冷めています。冷静であり、一線をおくことを要求されるのです。誰に教えられたのでもありませんが、模試の結果に溺れることが本番の命とりになるということは、知っているのです。こうして戦術をねりながら本番へと向っていくのです。

教師達は活気があふれていました。一生懸命のあまり

に声をつぶす先生もありました。とても熱心な授業でした。でも彼らの教える内容が受験勉強の範囲を越える程に高度のものであっても、こちら側はその範囲を越えて受け入れることはできません、受験を突破してから本当の勉強が始まるのだという気持ちで、ついてまわるのですから。教師の高度な学識も、浪人相手では叱咤激励となるのです。「これは大学に入ってからゆっくりと学ぶことだが」と前おきされると、「早く大学生に！」とあせりの気持ちが湧きおこってくるのです。

このような予備校でのさまざまな経験が、「浪人」を作り上げていくのかもしれない。でも、宅浪がいいとは思えないのです。よき友達と励まし合って努力をしていく素晴らしさも、知っているからです。

予備校へ行こうと、宅浪であろうと「受験」は、容赦なくのしかかってきます。その重苦しさからのがれるために、モラトリウムを始めるのです。これが一番こわいことです。何をするにも、「受験がすんでから」と思い、周囲もまた同じような気持ちでいます。「現在の自分は仮の存在で、真の自分は受験後にある」と絶えず思っているのです。現在の自分に甘えてしまうのです。今、その時を一生懸命に生きようとする気持ちが、薄れていくのです。

人間は誰でもモラトリウム的であると言われています。

▼私の視点

す。しかし、そのモラトリウム精神が、成長期の一八、九歳で強く動いた場合、どういう結果になるのでしょうか。自己を「仮物」と考えて大切にしないであれば、他人への思いやりも欠けていくのではないのでしょうか。

私自身も自分を「仮の存在」とすることで随分といいかげんな気持ちを持ったり、なげやりになったりしました。すべてが「受験」「浪人」の一言で、許される気がして、甘えてきました。こんな生活態度を一年間続けてきたのが、今の自分なのです。

先日、予備校の「合格祝賀会」に出てきました。一年間、励まし合った多くの友達に再会した感激は、この上ないものでした。そして友達の様子を見て思い出すことは、映画に行ったり、買物をしたり、食事をしたりの楽しいことばかりでした。一年前、浪人を終えた先輩が、「浪人時代も楽しかった」などと言うと、強い反発を覚えたものでしたが、今、私もまた、そう言うしかない気持ちになってしまったのです。

今となっては敢えて、浪人のモラトリウム精神などについて考えることは、私にとってもつらいことです。でも「楽しい思い出」として終らせてしまう前に、もう一度、受験や、モラトリウム精神について考え直すことが、必要だと思うのです。その上で大学生活に一步を踏み出したいと思っています。

私の視点▲

夫の貞操

私は浮気を許さなかった



埼玉県 S・M

夫の浮気の事件といっても世間に良くあることとは知っていましたが、夫婦別れの原因の二十七・五％とは、私はなんと平凡などにもあることに一人で涙を流し、歯をくいしばって、女への憎しみを宝物のように抱きしめて生きて来たのか、考えればなんと馬鹿げた生き方をして来たのでしょうか。

とどのつまり、一人で婚家を出、流行の映画「クレイマー・クレイマー」日本版を地で行っています。子供が高校生と小学五年なのが映画とは異なりますが、夫が独立したいといい、アパートなど借り、お前はきらいだ、子供はくれてやる、両親は見る必要はない、金なんぞ一

銭もない、一人にしてくれなどというでしたら、舅も姑も嫁は婚家にのこれというでしょう。

私がその人だったら、夫の意志は無視してすぐ出掛けていって、アパートに黙って坐っていること。子供が一緒だったらあまり泣かせないこと。相手がお前のいる所でないといったら、できるかぎり丁寧な言葉をつかつてあたりさわりのないことを言う。天気の話がいいわ。暴力をふるわれたら、近所の家へ助けを求めること。いずれ女がついていきますから、女にはニコニコすること。女が出ていいたら本性を出すこと。

昔からいわれる通り、一番に目を離すな、二番に御馳走を作れ、三、四がなくて、五が目を離すな、これが真実だと思えます。一般にこういう時、すぐ家裁と思いますが、この場所は想像する以上に他人事としてうけとめ、相手の涙の前で平然と次回の旅行の話など、笑いながらするようなところでず。

結論として、貞操のテーマと少々離れたようですが、広い意味で浮気を許さなかった、と考えて下さい。

夫と妻の貞操観



東京都 H・S

友人の一人に結婚してたとえ夫に女性ができてかまわないという人がいる。驚いてどうしてかと尋ねても、きちんと家に帰ってきてくれるなら平気だという。

私の夫も私が希望するなら、また家庭が壊れないのなら私が外で何をしてもいいと言っている。お互い自由じゃないかというわけだ。でも夫がそんな内緒事をしたら私の方が気分穏やかにいられないから、夫の場合にはあてはまらない。

結婚するまではいくら女遊びをしても、家庭を持ってからまじめであればいいとか、家庭さえ崩さなければ浮気の一度や二度問題ない。お妻さんがいたってそれはむしろ男の甲斐性、あるいは商売・仕事の一つという考え方もある。そうして昔から女性を耐えてきた。男なんてものは好きでもない相手とでも肌を合わせることもができるし、また性の欲求というものはそれ位激しいという。そうかも知れないし、私達女性は年頃になれば男性の生理には暴力的な一面があることもよく知っておかなくてはいけない。

でもだからといって手当り次第誰でもいい、お金を払って一晚付き合ってももらえるなら、そんな手頃なことはないと遊んで回る人の気持が理解できない。昔の日本や外国にあるような公娼制度はあった方が治安と風紀のためにはいいと夫はいうが、女性を相手にすることが単に欲求解消、お遊びだけで済まされるものかどうか疑問だ。かつて「婦人公論」にブレイボーイと自称する人の手記が載っていたが、何かいよいよ加減な人のようでどうしても納得がいかなかった。変ったことをしてみたくなるのは人間誰しもだろうが、こと男女のことになると不潔感が先に立って冷静に考えられなくなる。

ちょっと一晚後腐れない女性と寝た位で目くらまを立てて怒るなどいっても、男性は肉体と精神をそれ程分けていられるのだろうかと言いたくなる。やっぱりお金で女性を買うという行為は恥かしいことだと思う。お金の力があれば何でもできるということになってしまふ。買われることを望む女がいるからそれをする男がいると夫はいうが、好きでそんな商売をしている人はほんの僅かだろうし、そういう女性の精神は荒れていると思う。

夫の知合いには、三十歳そこそこで二号三号と呼ばれている人がいて、その上プロの女性も相手にするという人がある。勤務医なのにアルバイトに走り回り、また夜は個人で開業もして収入はとても多く、立派な家を建て奥さん用にも車が一台あるという。亭主のそのような夜

遊びを奥さんは御存知かどうか知らないが、夫婦仲は悪くはなさそうだ。

稼ぎがいいから奥さんは三人の子供がいても車を乗り回して好き放題させてもらっている。だから夫が何をしても寛容でいられるのだろうか。私にはたとえ夫の放蕩を知らなくても、夫婦一緒に居られる時間の少なさを想像すると、それで平和に暮らせている夫婦の結びつきに首をかしげてしまう。夫の話を聞いていると、女遊びの派手な人程お金儲けにばかり必死になって患者の立場に立つての治療などしない、勉強もしない、つまりいい加減な仕事しかしない人ばかりだ。

男女の秘め事は私達だけのものという意識があるからこそ、夫婦の絆は一層強くなるのではないだろうか。夫が妻が誰かよその人と戯れている、どんな楽しみ方をしているのだろうかなどと相手を穿さくするようになるとお互い安心していられないし、信頼も生まれない。

貧乏というものを経験したことがないから稼ぎが悪くても絶対我慢できるとは断言できないが、私には私だけ大切にしていってくれているという安心感がなくては行かない。だから人一倍独占欲が強くて嫉妬深い。それはきつと一人取残されることへの不安ではないかと思う。そんな不安があるからこそ夫を大切にしている。そうしないと自分も大切にしてもらえなくなるという意識がある。夫以外の男性と仲良くしては夫を大切にできなくなる。人生七十年以上あるといっても相手のために費

やす時間はそんなに長くはない。夫の場合もまた同様で二人三人の女性を同時に幸せにできるなどと思ってもらっては困る。

でも夫は死ぬまでに浮気位はするだろうから覚悟しておけと予言している。男の一生にそんなことがあったっておかしくはないだろうというわけだ。「女を買ったところがない」というだけで珍らしがられる世界にいるから悪い誘いはいくらでもある。でも浮気だけは許せない。浮気などといういい加減なこととはしてもらいたくない。心と体は一体であって欲しい。本気ならこちらが至らなかったせいでとまだ諦めがつく。

といっても離婚する段になって頂くべきものがなかった場合、別れて母子家庭になつては生活できないし、といて一緒に暮らすなどという苦痛には耐えられない。そんなことまで心配するのを杞憂というのだろうか、不幸というものは本人だってびっくりする位何の前触れもなしにやってくるものに違いない。

また、最近では夫婦揃って浮気はいかがと夫婦交換がはやっている。そんなこと週刊誌のネタに過ぎないと気にもしていないかったが、実際に耳に入ってくるし希望すればそういう人達のグループに入ることができる。その会員達の学歴は高く、後の夫婦関係も充実したものになるなどと聞くと本当にそうなのかしらと聞く耳が立つてくる。でも一度してみようなどとは思わない。生涯今の夫一人でありたい。固い考え方だけれど今はそう思う。

中途半端な女性解放？



千葉県 Y・S

はじめに、「貞操」という言葉には、次の二つの概念があることを明らかにしておく。

(一) 愛する人への誠意

(二) 婚姻中の契約

(一)については、これはしごく当然のことであり、男にとっても女にとっても、普通、苦しいものではない。生物の性の自然にもとづくものだといってもいい。

(二)は社会契約的なもの、歴史的なものである。これまでの男性支配社会は、一方的に妻に対してのみ「貞操」を要求してきた。それが、徐々に女性の地位が向上してきて、「夫の貞操」が要求されるようになってきた。が女性解放とは、女性が縛りつけられているしがらみに男性をも縛りつけることだろうか？

日本では、夫が他の女を愛し、やがて結婚生活が事実上破綻しても、妻は生きている限り永久に離婚を拒否できる。ところが、女性がもっと解放されている国々では結婚生活が事実上破綻していれば離婚が認められていると聞く。日本は、女性の地位の低さを、「妻の座」を強

固にぬりかためることによって補っているにすぎない。

私と夫の場合であるが、夫婦仲はあまりうまくいっていない。その夫が、会社の用で時々韓国へ出張しなければならなくなった。なんだかゆううつな話だ。

女の肉体を金で買う——かわいそうな男たちだと思う。飢餓からの解放——食物だけでなく、性の飢餓からの解放も、人間の自由の実現の課題の一つのはずだ。女性解放は男性の解放にもつながる。女は金で肉体を売らなくてもいいよう、解放されねばならない。もちろん、妻として夫に扶養されるという形で買われることから。金で買われているから労働しなければならないのであり、妻は家政婦兼乳母（保母）兼娼婦なのだ。

ともあれ、韓国出張の話はゆううつだが、その他のことでは私の夫は浮気などしないだろう。なにしろ、まじめ一方の潔癖症の石部金吉なのだ。他の女を好きになったら、彼ならそこにのめりこんでしまうだろう。

夫に言っている。「私よりいい女がいるというならしかたないわ。その時は子供を置いて家から出て行ってちょうだい」この家は、財産上、私の所有物なのだ。慰謝料はもらいたいわけではない。夫婦のことは夫婦相互に責任があるのだから。が、子供の養育費だけは要求しよう。

私も働きはじめたから経済的にはぎりぎりでもなんとかやっていけるだろう。そしてそうなったら、私も、今度こそ、理想の男性をみつつけよう。夫のいる今は、とてもそんな勇氣はないのだが。

男の生理



神奈川県 H・M

「貴男は生涯幾人の女性を知ったの?」

「七、八人くらいかな?」

「ええ、たったのそれっぽっち、可哀想! 私の前の彼は、若い頃赤線に入りびたりで、少くとも二百人の女性と関係したって言ってたけど、貴男は赤線に行かなかったの?」

「赤線へ行ったのはたった一回、俺は、お金で女を買うというの嫌いなんだ」

「もう人生残り少ないんだから、一人でも多くの女性を知った方がいいわ。チャンスがあったらせいぜい浮気しなさいよ」

「冗談じゃない。文無しのじじいを相手にしてくれる女の子なんているかいな」

「可哀想だなア」

夫、五十代後半、妻、四十代半ばの、ある時の夫婦の会話、本音である。

私は、夫婦といえども、人間が人間を所有出来るはずのものではないんだから、例えば夫が浮気をして、私が知らなければ一向に構わぬ、又逆に、私が万一そうし

ても、夫に知らなければ、悪くないと思っている。もっともいざそれが現実化した場合、果して口で言うほど簡単なものかどうか、それは分らない。

ただ、私の独身時代の、そう多くはないが、少くもない経験から言えば、男と女の生理には大きな差があると思う。

男の生理は、多数の女性を知れば知るほど幸せであり、女のそれは、反対に、多数の男性を知らない方が幸せであると信じて疑わない。間違っているかも知れないが。

だから、夫には、もっと女性をと本気で思っている。

しかし、幾らそうは言っても、実際に夫に愛人ができて家庭が破壊されたら困るに決っているから、家庭がこわされぬ程度にという難しい条件がつく。つまり、大人同志の単なる遊びという、割切れた関係であれば大いに結構である。そんな関係があるかどうか分からないが。

一方、本当は、私は夫を余り愛していないが故に、こんなことを平気で言えるのかも知れないと思う。

もし夫を熱愛していたら、夫を一人占めしたいと思っても浮気のすすめなんかできないと思う。

要するに、相思相愛の夫婦であれば、お互にお互の貞操を堅固に守り合うことを主張し、決して、他の女性、あるいは男性との関係を許さぬものではないか。

夫の貞操も、妻の貞操も、ケースバイケース、それぞれの事情と好みの問題に帰するものではないかと思う。

思い出すこと



千葉県 M・F

背中を「バタン／＼」と大きな音をたてて閉まるドアに、「これで八年間の結婚生活も終りになるかも知れない」と思った。両眼に涙を一ぱい浮かべ我家をとび出したあの日。

北風の吹く寒い日だった。夫が急に改まった様子で、「話がある。落着いて聞いてくれ、実は……」と話し出したのは何と「つき合っている女性がいる」ということだった。カナヅチで頭をガーンとたたかれたようなショックで、気がついたらサイフだけをにぎりしめ北風の中を歩いていった。

「許せない、絶対に私というものが居りながらそんなことをするなんて、信じていた自分がバカだったのだ」「どこへ行くの」行く所なんてありはしない、街の中を歩き廻り、一軒の喫茶店に入りいくらも落着いた。

一時間位もそうして居たろうか、フト入口の扉ごしに中をのぞいている夫の姿が見えた。迎えに来たのだ。外に出ると涙にぬれた頬がつめたい風に突張り痛かった。夫が肩にストールをかけてくれた。並んで歩きながら一

言も話さなかった。

部屋へ入り「俺が悪い。あやまるこの通り、甘えていたことも確かだ。だがどうか落着いて聞いてくれ」「あんまりです。私が何をしたというのです。R子とどっちが好きか今すぐ決めて下さい」「良く聞け、お前は何もしてない、したのは俺だ。だが半年や一年前に知り合ってた女と、八年も一緒にくらしている女がどうして並べて考えられるのだ。そんなに自信がないのか、俺にはそれが理解できない。この八年間が大切ではないのか、そんなに簡単にこわしても良いものなのか、そうならそのことの方が問題ではないか、わかってもらえず泣きたいのは俺の方だ。悲しいよ。もう何も相談する必要もないのだな、大切だと思っからこうして話合おうしているのがわからないのだから……」「もう良いんです／＼」と、私が答えたとたん「何が良いんだ／＼ちつとも良くない／＼」と大きな声がし目の前のテーブルが「ドン／＼」と鳴った。夫がテーブルをたたいたのだ。

それからボツボツとR子との出会い、現在、これからを聞いた。いずれ別れるがそれには時間を要すること、決して一時の気まぐれからでは無い、会って見ればわかるという。一時的なものでないなら尚大変ではないか。間もなく夫は本当にR子をつれて来た。年令は私より十五も若く、細おもてのステリとしたきれいなお人形のような人だった。細い身体を小さくし夫の影にかくれて「ごめんなさい」と消え入るような声で言った。この人のど

ここにそんな強さがあるのだろうかと思った。これからどんな色にでも染まって行く真白な絹の布地を感じさせ、私が失くしたものを見せつけられた気がした。けんかにも何もならない、負ケタと思った。そして夫がひかれたのもちょっぴりわかる気がした。

一ヶ月後、彼女の自殺未遂があった。幸い一命はとりとめたが、直接の原因は「さびしさ」だった。夫は女というのは自分のことしか考えてないと怒っていた。怒りながらも看病していた。

時が解決してくれた部分もある。あの時、R子の出現

家庭は聖地ではない

あき

千葉県 M・K

結婚する、ということはお互いに相手以外の異性と交渉を持たないという大前提があつての契約だ——と何かで読んだことがある。

勿論この場合の交渉とは即肉体関係のことであろうけれど、現在の日本ではまだまだかなりの人達が、結婚後の異性友だちを色眼鏡無しで認めるとは言いきれないか

がなかったら、現在の私達はまた、異なった形態を成していたかも知れない。物事には単純に「良い」「悪い」と分けられないものもあり、おきて了った、おこして了った時に、どう対処するかが大切であり、「許す、許さぬ」とさわいだことも自己の力ではどうすることもできぬ大きな力が作用することもあるのだとわかった。あきらめとは異なる。夫という人間もいくらかは理解できるようになり、自分がいかにチツボケな人間かもわかった。そしてそれがわかったら気が楽になった。二人、いや三人にとって忘れ得ぬ一コマだ。

ら性交渉は無論のこと、異性との関わりは一切ご法度的なものを結婚の大前提としているのであろう。

私はこれを読んだ時——もう大分前のことで多分結婚したばかりの頃だったろう、あたりまえの話じゃないの、と思ったものである。だが、この、相手以外の異性と交渉をもたないという大前提のもとでの契約が絶対なものだというなら、大方の結婚は、おそらく契約違反で破綻をきたしてしまっているに違いない。今ではそう思う。

私の知り合いの中でこんな人がいる。夫が一人の芸者と仲よくなった。芸者は商売熱心に夫と仲よくする。妻は当然、嫉妬に狂って一人の子どもを連れて芸者の所に押しかけた。夫と別れてくれと言うのである。夫は国鉄

職員である。芸者を二号にして本妻とも仲よくなどという芸当はできない。一時の遊びであつた。けれども妻は決してその一時の遊びを許さず、結局は自爆してしまつた。夫は嫉妬に狂つた妻と別れてしまつたのである。生活力の無い妻は子どもを引き取つて育てることもできず、夫には子どもの養育費を送る力も無い。まして多額の慰しや料を出せる程財産がある訳でもない。家庭が崩壊しただけの話である。

何年かして夫は再婚した。子どもを育てるのに女手が必要だつたからである。再婚相手は例の芸者である。よくある話じゃないの、と言わないで欲しい。夫は女友達？としてこの芸者きり知らなかつたからなのだ。つまりこの芸者を妻にしたいばかりに先妻を追い出したのではない。先妻が夫の遊び心を容赦できずに家庭崩壊にまで持つて行き、その結果として芸者が後妻として入つただけの話なのである。

私の知り合いとはこの芸者に育てられた子供のひとりである。この子供が長じて自分を捨てて出て行つた母親と行き来を始め、私もその母親と直接話をする機会を得た。その本人（母親）が老いて後、当時の一刻一刻に焦点を当てて考察した結果が前述の通りなのだった。

芸者と遊んだ夫が悪い!! そう思う人が多いかも知れない。浮気なんかする方が悪いにきまつている、そういうかも知れない。私も若くて青いうちはそれ以外に考えなかつた。でも、人間なんてそれ程ちつぽけ（敢えてそ

う言う）な路線をヒタ走るだけの動物だらうか？

あつちにも道があり、こつちにも道がある。たまには広——い原っぱも走りたいし、きれいな人を見れば仲よくもしたい。それだけのことなのだ。勿論、そのきれいな人と仲よくしたことで生活費も家庭への関心も全部無くしてしまつたと言うのなら、それはそれで義務の放棄ということが問題になるのだから、結婚した途端に男は夫という別種の人間になるわけじゃない。勿論女も妻という別種の人間になるわけじゃないが——。

いいじゃないの、男が女と一夜遊んだつてそんなことで壊れてしまうような家庭なら別なこと、ひどく小ぢやいことだつていつか壊れちゃうでしょうよ。

私は私を縛るものを全て許せないから、相手も縛りたくない。人の心なんて自由にできるものではないのだから貞操なんて強制したくない。夫が私のために自分を汚したくないと思つてくれるなら最高に幸せだと思ふけれど、私は夫のために他の誰にも目もくれないなんていうことはしないのだから、夫が誰をどう思つたつて仕方のない話なのだ。

人間、いつ死ぬかわからない。生きてる内にしたいことをしたらいい。自分たちが作つた家庭を一方的に壊すことさえしてくれなければ、私は敢えて角を矯めて牛を殺すような真似はしたくない。買春をするような男を夫に選んだのは私なんだナアつて思うだけだ。家庭は聖地じゃない。男と女が棲むところだもの。



江守五夫

男の特権・不貞



谷内真理子

・出席者

千葉大学教授

江守五夫

フリーライター

谷内真理子

フリーライター

ビヤネール多美子



ビヤネール多美子

・編集部

林慶子

・司会

和田好子

●女自身のあいまいさ

和田 「夫の貞操」の特集で投稿を募集しましたところ六篇集まりました。

これまで私共の印象では、主婦は家の中で地位が高く威張っていて、相当力を持っているという感じがあったのです。子供の教育は一手に引き受け、経済はまかされている、ある意味では独裁者といっていいくらいですが、この投稿に限っていえば独裁者どころか、力関係では夫にかなわないということがはつきり出ているわけなんです。

許さない！と頑張っている人も最後に、「夫のいる今は自分にとってその勇氣はない」などと結んでおり、ひどく甲斐性がないんですね。

あの輝かしい主婦像、家庭の女王はどこに行ってしまったのか？（笑）

谷内 主婦の力は輝かしいように思われている、とおっしゃいましたが、ある意味では暇があり、財布をすべてまかされている、教養を身につける時間にも恵まれている

けれど、本当に人間として自立しているといえるのかどうか。

主婦宴会幹事説というのがあるのですが、お金を預けられてあれこれ手配はするけれど皆んなが楽しんでる間は決して楽しめず、気を配り、おまけに後始末もさせられる。限られた中での権限で、本当の意味での実権ではないのですね。「夫は仕事、妻は家事育児」というスタイルは対等な分業なんだと思っている人が多いけれど……。

主婦は家の中では解放されているではないか、と社会的にもいわれているけれど、いざ自分の人生に問題が起きた時に、必ずこの投稿に見られるようなものを引きずっている。

江守 そうですね、家庭の内部では女性は解放されているように思われていますが、社会全体が男性中心の社会なので、離婚して食えるかどうか、その問題が究極的にはありますから、いかに夫が乱暴を働いたり

不貞を働いたりしても、妻の座を失なうことは失業を意味するという社会の中で、離婚したあと自分で食っていける体勢がなければ、妻としてはやはり夫の不貞にも我慢しなければならぬ、という意見も出てくるのではないかな。

ですから、夫の不貞を糾弾して家庭を壊すより我慢すべきだという意見があっても、その投稿者を必ずしもせめるわけにはいかない。そういう哀しいところに女性を追いつまれていると思います。

林 長い年月をかけて洗脳されてしまっているから、浮気は男の甲斐性、それを責めたりするのは野暮なこと、話のわかった女房と思われたいという風潮がある。女自身が思いこまされていますね。

和田 投稿の中にこんな夫の言葉があります。「お前は嫌いだ、子供は呉れてやる。両親は見る必要はない。金は一銭もない、一人にしてくれ」。こう自分勝手なことを言い出されたら、女の方は無力ですからお

手上げですね。

谷内 そこまでひどい夫の本性が見えたら、生活はともかく、もっと切実に別れたいと思わないものでしょうかね。

和田 夫の本性はここでは問題になっていないようですね。夫の保証してくれる家庭

●怒れない女たち

和田 以前「何故結婚するか」のアンケートをした時に、申し合わせたように外圧で結婚している。自分が本当にこの人と結婚しようというのではなく、自分の仕事の限界が見えたとか、年令のことや周囲の騒ぎによって仕方なく結婚している。ある年になつたら結婚するのが当然というような現状の中で、それをせめるのは酷だけれど……。万事そこからはじまっているのではないですか。

江守 つまり結婚が二人の人格的な結びつきにもとづいていない、精神的結合に依拠していないから、夫が不貞を働いても、それによって自分の人格が傷つけられたとは

生活が女にとって一番大切で、夫の本性や人間性はもう一つ問題になっていないのではないか、という印象ですねえ……。

谷内 人間性をウンヌンするためには、自分の結婚が本当に自分の人間性から出た結婚なのか、一生養ってもらおうという考えか

思わない、ということになるんですね。

林 妻という身分がおびやかされない範囲なら馬耳東風を装って、問題を直視するのをさける。精神的屈辱よりも生活をおびやかされない現実の方が先なんでしょうね。

谷内 そうなんです。不貞もよく知らないところでやってくれれば痛くも痒くもないということでしょう。そういう意味で妻は、海外売春にはきわめて寛容ですよ。

和田 韓国へ夫が行くことになった、どうやらなにかやりそうだ、とても嫌な感じだけれど知らないでいたい、という投稿があります。

谷内 後腐れがないという点で、海外売春

らの結婚なのかということをもっと考えなければ夫だけを責められないでしょ。女性のあいまいな生き方というところに根があるように思いますね。これは私たちみんなの共通の問題だと思っんです。

は、夫にとっても妻にとっても都合がいいんです。

林 「アジアの女たちの会」は、二度と再びアジアの侵略に手を貸すまい、夫や子供達に経済的侵略、性侵略させまいという主旨のもとにできた会なのですが、そこでこの間「売春観光を生み出す意識」というアンケート調査をしています。団地の住人（中間層の三十代カップル）を対象にしたデータが、その背景をよく表わしています。

「日本の中で遊ぶのと違って、後腐れがないからよい」「性病が日本に入ってくるのが心配」というのが夫より妻の方に圧倒

的に多い。勿論一番多いのは「他国の人々を軽視し、搾取する行為であり許せない」ですが、前の二つの答えが先の意識を端的に表わしていると思うんです。

アジアの女たちにそういうことをする男たちを許せるというのは、「別の人」という意識がまだあるわけね。自分自身への侮辱だと受けとっていないんです。

それと、日本の男性は一人で行動できない。ワーツと群をなしてすごいです。ドブネズミの集団のように群をなして行くそうです。今、韓国では「妓生^{ヤセン}観光」とはいいない、「韓国風俗視察親善旅行」という

そうです。（大笑）

その群をなしている姿は想像するだけでもおぞましい、鳥肌が立ちますね。

谷内 最近が目立たないようにと女性を一人でホテルにたずねて来させるようです。韓国は戒厳令で夜は外に出られないから、追いつ返すわけにいかない。

ある牧師さんの所へも女性が飛び込んて来た。「ぼくはこういうことを告発しに来たのだから」と説明して帰ってもらったら「日本の男性なのに何もしないで返すとは怪しい」と警察に通報されてしまったそうです。日本の男性と言えは皆、その目的で

来ていると思われるほど、日本の男性の放縦振りはひどいようです。それを黙認して送り出す妻たちは加害者ですよ。

林 韓国への観光客の九四・三％が男性で、その殆んどが既婚者ですって。かつて夫や息子たちを笑顔で日の丸振って、アジアへの侵略戦争へ送り出した女たちとイメージが重なりますね。自分の家庭さえ安泰でありさえすればというエゴイステックな生き方が主婦の中にあるならば、今度は完全な加害者として、かつての道を繰返すのではないかと恐怖を感じます。私たちは、まず怒ることを学ばなければ。

●二重の性モラル

江守 投稿を見ましても夫は性的に自由でも当然だ、という意識が女性にはあると思いますね。それが前提となつて韓国旅行を許す。これは歴史的に見ますと一夫多妻制の名残り、と言つても過言ではないと思います。

ギリシャ・ローマ時代に一夫一婦制が成

立するのですが、どうしてこの一夫一婦制が成り立ったかという問題は、この婚姻制度のもとでの夫の性的自由と関連しているんですね。

社会学者のマックス・ウェーバーの説に よりますと、一夫多妻制が支配的だった古代の最も古い段階では、家父長制が最も厳

しく貫徹し、強大な夫の支配権力のもとでは、女奴隷であろうと自由民の女であろうと、その処遇の上で区別がない。そこで、富と権勢のある家の父親は、そういうみじめな状況のもとに自分の娘を嫁がせるのはいやだと考える。父親にしてみれば、娘に、やはり一定の地位を保証してもらわな

ければならない。そういうことで、持参財産をもたせて、その代りに自分の娘だけに正妻としての地位を保証してほしい、娘の子供だけは嫡出の相続人として優遇してくれと、こういう契約が成立した。それが一夫一婦制の発端だ、というものです。

ところで、このような契約関係からすると、夫にしてみれば、彼女の正妻としての地位を保証し、彼女の生む子供を嫡出子として相続権を保証してやれば、他に妾を持つとが娼婦と遊ぼうが、契約は守っているのだから、その結婚制度とは矛盾しないということになるわけです。こうして一夫一婦制のもとで一夫多妻の傾向が成立することとなった、——これがウェーバーの説なんです。

そうなると一夫一婦制のもとでも、夫は婚姻外の性的自由を享樂し得るが、妻は、元来、強大な権力のもとに嫁ぎ、いわば夫

の所有物とされたのだから、彼女の貞操は一方的に強制される。ここに性モラルの二重基準が成立するのであり、男性の性的自由は認めるが女には厳しく貞操が要求される。このような二重の性モラルが家父長制のもとで、ずっと近代まで続いたんです。

法律について申しまして、民法は離婚原因について妻の姦通と夫の姦通とを区別してきたのです。これは近代の民法においてもそうなのですね。

一八〇四年のナポレオン民法では、妻の姦通に関しては夫はただちに離婚を請求できる、夫の場合は夫婦の住居に妾を引き入れた時にはじめて妻は夫の姦通を理由に離婚請求できる。条件がこれほど違う。いいかえれば妾を家に引き入れない限り、男は外で何をしてもいいということになる。日本林 それでも日本よりまだましだわ。日本

は妾を同居させても妻はがまんする。山代巴さんの小説にもありますもの。

しかし、民法が離婚原因について、妻の姦通と夫の姦通を区別してきた点については日本でも、西洋でも同じですね。

和田 武士は日没後の外出はできなかったから、外では泊れないので妾と妻が同居していたんですね。

しかし日本の昔は武士を除いてセックスについて、男女共にルースだったのではない。女にもそれほど貞操を要求しない、夫は勿論一夫多妻ですが、女が夫や恋人を乗りかえるのも案外簡単であつたように思ふんです。

谷内 そういう風潮があつたので室町以後封建制を確立するために、為政者は建て前だけでも更に厳しくやつたんですよ。

●妻の姦通離婚は待ったなし

和田 私は明治以来、建て前と本音が一致

して来たと思うのね。女の不自由さが以前

よりひどくなっているのではないか、こと

に女自体が性的にルースではなくなってきた。自己規制が強くなって、教養ある女性ほどそれが強くなったのではないかしら。

江守 民俗学の立場から言えば、庶民階層にはさきほど仰言った「よばい」の風俗なども残っていましたが、武士社会にはやはり儒教的なものが強かった。その伝統を引き継いだのが明治政府で、明治民法なども儒教的なものが基礎になっている。離婚原因でも妻が姦通した場合は待ったなし、夫の場合は何もない。刑法でも建前として妻の姦通だけが処罰される。

夫にも貞操義務があると認めた判決が出されたのは大正十五年なんです。

夫が他の女性と同棲し、遺棄されて生活に困った妻が、弁護士ではないが、法律事務所に務めている人に頼んで夫と交渉してもらった。彼は、夫にたいして、「あなたの行為は姦通罪になる、もし告訴されるのが厭なら、生活のための金を寄せ」と、おどして金をとった。

当時の刑法では夫の姦通は、その相手が人妻で、その人妻が姦通罪にとわれた時はじめて相姦者として罪にとわれるのである、この事件のように相手が独身の女であ

れば姦通罪にはならない。そこでこの弁護士事務員は逆に恐喝罪で告訴され、第二審までは有罪と判決された。ところが、大審院は大正十五年に「婦ハ夫ニ対シ貞操ヲ守ル義務アルハ勿論、夫モ亦婦ニ対シテ其ノ義務ヲ有セザルベカラス」と宣言し、審理のやり直しを決定し、昭和二年に大審院は右の宣言を前提として被告人の無罪を言渡したのです。

和田 現在離婚の統計を見ましても、夫が申し立てる離婚理由の第一は妻の不貞、女性の申し立てる第一は夫の経済問題です。

林 先ほど江守さんがいわれた「妻は夫の所有物」という意識は、民法かわれど今でも生き続けていますねえ……。

谷内 法が変われど意識はそのままといい傾向は特に日本の場合強いですからね。現在結婚は寄合い婚になっているのに、昔の家族制度の嫁入り婚そのままの意識が色濃く残っている。「○○家の嫁となるからには」などという大時代的な言葉がいまだにごく当り前に使われているんですものね。「私は嫁に來たのではない、ただ結婚しただけです」と新妻が言ってもまず受け入れられない世の中でしょう。私、常々思っ

いるのですが、現代における嫁姑の問題は、このところの意識の混乱によるところが大きいんじゃないかしら。

一人っ子社会の到来や、政治の行き詰りで、またぞろ二世帯同居論が盛んになって來たけれど、親の側が「家に來た嫁」なんて意識を持ったまま同居してもうまく行くはずがありませんよ。

林 自民党は「家庭基盤充実政策」「日本型福祉」とかの美名にかくれてあの手この手のかつての家制度を形をかえて復活させようと政策を押し進めている。子育てや老人介護、病人介護を女に押しつけ、夢よう一度と考えていますものね。

谷内 政治状況や経済状況にもっとも左右されてしまうのが性の問題なんです。和田さんのいわれた江戸時代より明治の方が女性にとって不利なことがでてきたというのは、江戸時代は政治的に武士階級は締めつけても庶民までは掌握できなかった。それが明治の近代国家として歩むようになってから、制度的にすべての階層を掌握した。そこで人間の自由の領域、性の領域にまで国家が入ってきたということでしょう。それは今でも例外でなく、オイルショックや

年金の問題がおけると、これは大変だとい
って女性を家庭の中に縛りつけようとし、

女性よ家庭にもどれという。じつに都合よ
くあつかわれる領域なんですね。それを女

性が見抜いていかないと。

●女の不貞は血統を紊る^{みだ}

和田 やっぱり貞操の問題は、社会・経済
のありかたと結びついているんですね。

かつての若者宿とか娘宿とかいうもの
も、その時代の経済のありかたと結びつ
いていた時は順調に機能していたと思うん
です。

村という社会の中で、現代風な自由では
ないけれど、今よりも自然なセックスがあ
ったのではないかと思うんですが。

江守 確かに日本の西南部の、生産力の低
いところでは若者宿、娘宿があつて、"よ
ばい"の風習があつたのですが、それは人
類学では、配偶者を選択する機能をもつた
ものと解されています。つまり、そこでは
手を自由に選ぶ自由結婚がおこなわれて
いたのです。

だが、"自由"といつても、自我が目覚
めた近代的な自由ではないわけです。親が

勝手に子の配偶者を決めないという意味で
の自由と考えてますが……。

その風習が明治政府の教育政策と矛盾す
るものだった。そこで明治十年代末、東大
の西村茂樹などは、"女色をいどむ少年無頼
の徒"と非難したりする。二十年代に官製
の青年団運動が起き、寝宿やよばいの習俗
も抑圧されることになる。

このように抑圧された結果、明治の末頃
には、よばいも元来の配偶者選択の機能を
失つて、むしろ単なる夜遊びになつてしま
つた。明治国家権力は、この種の婚姻習俗
には非常に抑圧的でした。

和田 国家権力が恋愛の自由まで禁止した
といつてもいいわけですね。

(ビヤネール・多美子さん出席)

和田 家父長制以前はどうであつたのでし
ょう。

江守 家父長制以前は母権制社会しかない
わけです。もつともこれも全人類、全民族
が経過したかどうかは否定的に考えられて
いますが、その母権制社会では男女、夫婦
は平等であつた。文明社会になると母権制
がなくなつて父権制というか、家父長制的
なものがどこにも成立するわけです。

近代になつて個人主義が出てくると、親
が勝手に子の配偶者を決めるのはおかしい
ではないか、人々が愛し合つて結婚すべき
だという考え方が出てくる。恋愛至上主義
的な考え方と、伝統的な家父長制の婚姻思
想とは対立するわけですが、十九世紀末ご
ろまではどこでも、多かれ少なかれ、結婚
は家と家との間に結ばれ媒妁人を通じて行
なわれた、と言われています。

戦後日本では、ヨーロッパやアメリカは
近代化して自由な婚姻が行なわれてい

ると考えられ、日本も近代化すれば婚姻も自由になると考えられていたのですが、そうではなくて近代市民社会でも、まだ家父長制的なものがかなり残っていた、ということでした。

家父長制における性モラルの特徴は先程いったように、男性の性的自由と女性の貞操との二重規準ですが、それを合理化するための思想が「血統を紊る^{みだ}」ということでした。

●女に性欲はない？

和田 ここに一つ、男の生理は多数の女を知れば知るほど幸せだ、という投稿があります。ご年配の奥様だと思ふんですが、かなり長いこと結婚生活をしてきて、今そういう心境らしいんです。

谷内 明治の元勳たちの妻は半数が元芸者で、鹿鳴館の貴婦人として時代を謳歌していたんですね。こういう人たちの考えが、夫をどう操れば幸せになれるかとか、玉の輿に乗れるかとかいう風な、非常に世俗的

妻が浮気をすれば他の子種を孕む。これは夫にとって自分の血の繋がつた子に財産を継がせるといふ原理からすると、まさに血を乱すんです。だから妻の姦通というものは厳しく取締っていくのは当然だとされた。

日本でも女性にだけ姦通罪のある明治刑法はおかしいという論に対し、東大総長をやった加藤弘之は「有夫姦は血統を紊る」といって、女性の姦通のみを罰する刑法の

立場を擁護しています。

これは東西を問わず古くからある思想で、恋愛を賛美して自由結婚のチャンピオンであるルソーでさえも、そういう論拠から妻の姦通を重く罰して当然、といっています。

もう一つはもっと俗な考え方で、男は浮気の動物だ、ということでした。

な女性の処生術として、実利的に世に吹聴された、ということがあると思うんです。

明治の女子教育の基礎を作った男たちが、こういう女性を妻に持ち、こういう女性の生き方にしか触れることが出来なかったのは、後世までの不幸ですね。

江守 十九世紀の性科学者がまじめにいつている。「男を求める女性と、女を避ける男性は異常である」と。(笑)
だから正常であれば男は女を求めるが、

女は男を求めない。もっとも、「そうでなければ家庭はめっちゃめっちゃになる」という一文をつけ加えているのですが……。これは家父長制的な家族モラルの単なる現われにすぎない。性科学の理論というより偏見にはかならないと思いますね。

フロイトの理論には功罪いろいろあると思うんですが、良い点は、妻にも性反応が非常に強くなる。それを抑圧することによって、神経症などが出てきて結婚が破壊さ

れるようにもなる。夫婦の愛情の根源には満足のいく性が必要だ、女性にも性反応は男性に劣らぬものがある、とはつきり認めた点ですね。その点においては精神分析学は評価できるのではないですか。

今まで男は浮気の動物だといわれていたが、女だってそうなんだ、本来生理学的に言えば……。それを片方だけ抑圧するといふのはおかしいのです。

谷内 それぞれの国の神話とか歴史を見ると、例えばインドなどでは女性とは邪淫な

ものである、押し込めておかないと女は誰

彼かまわず引き入れて関係を持つ、といううたに歌っていますし、中国のてん足なども、女を他人の眼にふれないように閉じ込めておくためですね。かつての人間社会では、男女共に性欲を持っているとキチンと認識していた。

それを女を閉い込んで血統正しい子を生ませるといふ目的と、自分だけ放縱をきわめたいという二つの目的のもとに、女というものは性欲がまったくないものだと言

続けるほうが都合がよくなったんですね。

和田 女には性欲が「ない」として置かないと困るということでしょう、閉じ込めておくためには……。そういうことで女は無能にされて来たのではないのでしょうか。

谷内 男性が人間的なものによって女性を引き付けておくことに、いかに自信を持たなかったかという事の証左であると思うんですね。現代の男性だって、浮気だ何だと言っている人は人間性で勝負できないんですよ。

●性教育は人間性教育

和田 ビヤネール多美子さんはスウェーデンのことにくわしくていらっしゃるわけですが、あちらはフリーセックスといわれていますけれど、婚前交渉はかなり盛んでも、結婚してからは性道徳は厳しい、と聞きましたがいかがですか。

ビヤネール 一言でいえばそうです。これと思った相手が出てくるまでは、男女を問わず自由なんです。

だから自分の好きなように十人くらいつき合って、本当にこの人となら一緒に生活したいという人が出てきたら結婚する。結婚後もし相手に少しでも満足できなかったりさせられなかったりする場合は離婚ということになりますよね。

それくらい厳しい、というより、一人の人間の生き方と結びついているんです。非常に正直なんですよ。だから好きでもな

い人と生活する必要がないんです。林 そういう性の解放がなされるためには、女は経済的に自立していなければならぬでしょう？

ビヤネール やはり離婚した人は、経済的には大変なだけだと、人間的に、ということをお大切にするとちだから。自分を殺してまでも食べさせてもらうなんてしないわけ。

経済的に自立してない人でも、離婚を乗り越えてそれから仕事をする。そのために政府もずい分手を差し伸べています。

林 女性保護が行きとどいてるんですね。

ビヤネール 女性というより、弱者というか、一人一人の間がある程度の生活ができるよう保証しているの、女だからというわけではなく、暮していけない人のいいうよう、保護する単位が個人であるということです。

和田 古くからスエーデンの農村には婚前交渉の風習があったそうですが、それが今に続いていると読んだことがありますか……。

ビヤネール 農村の社会はわからないけれど、昔の話を聞くと割合今の日本の感じですよ。私の姑も子供ができたから、どうしても結婚しなければならなかったなどという話をきかされました……。子供の本なんか見ると、十八〜九世紀の話に、「十六、七の男女が麦畑でどうこう」というのがでてくるわね。

江守 カソリックの本場のオーストリーなどにも、やはり婚前交渉があるんですが、ス

エーデンの場合カソリックの影響が非常に少なかったたので、そういう風俗がずいっと生き伸びた、ということがあるようですね。林 未婚の母に対する保護は最近どうですか？

ビヤネール 社会民主党が45年くらい政権をとってきたんですが、彼等の根本政策というのはいつも平等主義を掲げてきたわけで、それがいろいろな面での不平等を除々に改正していった、顕著に現われて来たのが60年代なのです。

未婚の母だからというのではなく、あらゆることに平等ということをはじめてからやってきた。一貫政策がいろいろなところに影響して来たのです。

谷内 やるとなったら徹底してやる。いつもうらやましいと思うけれど、スエーデンの国民性でしょうか。

林 しかし「女性解放の手引」など読むと、状況的には日本と同じような意識があるようです。

ビヤネール やはり可愛い女は男の気に入られるというけれど、日本とは段違いです。完璧ではあり得ないけれど、彼女たちも一生懸命やっていますよ。高校生の頃か

ら男女生徒とも、どの科目をとれば就職に有利かと考えているほどだから、「私は学校が終ったらお嫁さんに……」などという人は一人もいないんです。

就職は難しいけれど、各世代とも何とか仕事を見つめようと努力します。私の知っているプロデューサーの奥さんは店員になつてゐるし、私の姑はずいっと重役の妻だったけれど生地屋の店員やったり、老人ホームに勤めたりで、六十五歳の今も働いています。

谷内 働きたいけどあんな仕事では、などとは言わないわけですね。日本の女性のように。

林 スエーデンではセックスを簡単な遊びのように考えて、貞操なんて言わないといえますけれど？

ビヤネール セックスをスポーツの一部と考えている傾向もなくなはない。しかし本当に好きな相手が出てくれば、複数の人と運動を楽しんでいたのが……（笑）その人だけにあります。でもお互に話し合つて、相手も誰かと、自分も誰かと寝るといふことはあります。

江守 スポーツねえ……。

和田 つまり貞操というのは社会的に押し

つけられている義務なのか、自発的なものなのかで違ってくるのではないか。貞操を守るのはいいことではない。愛情の最高の表現というのは、貞操を守ることでしょう。

谷内 貞操観などというものを国家や権力から操作されるのは断固としてお断わりだけど、個人のレベルでそれぞれの貞操観はあっていいと思いますよ。ただ一組の男女の間でかけ離れた貞操観があったのではだめですね。

林 二人とも何をやっても自由だ、というのも選択できるし、相手が好きだから貞操を守る、どちらも選べる状況が好ましいでしょうね。

ビヤネール それはルースとは違うのよ。パーティに行つて夜遅く、全然違う相手と消えていく場合がある。それはお互に了解し合つてやっているんです。

江守 スワッピングですね。それを社会的に認めるというと、性というものを夫婦の愛情とは違ったものとして考えねばならなくなる。昔だったら性モラルとしては、愛がなかったら性行為をしてはいかん、といったでしょう。

それが最近の傾向は、愛とは切り離して性というものに独自の価値を認める。愛がなければ性行為をしてはいかん、というのはどういう根拠があるのか、と批判的にみようとすると。性解放の思想の論拠はそこにあると思います。

ビヤネール スエーデンの性教育の中ではつきりしていることは、性よりも心の結びつきの方が大切だ、だから心で裏切ったことは性行為するよりもだめなことである。また思いやりが一番大切で、相手をけつして強要してはいけないとはつきり書いてあるんです。こういう教育を受けた子供達は

正常なことができると思う。

スエーデンでも古い教育を受けた人たちは技術的なこと、例えば生物上の、赤ちゃんはどこから生まれてくるかのような教育でしたので、心の問題が取り上げられるようになったのはごく最近なんです。

江守 スエーデンの性器教育が日本で信仰的に受容れられてきたけれど、男女の結びつきを生理学的に教えるのはおかしいじゃないか、と私も疑問でしたね。

ビヤネール 今は性教育という科目はなく、「性と一緒に住む教育」というのです。私は性と人間性教育と訳していますが、これは一科目としてあるのではなく、国語や社会、生物、道徳の授業の中で、例えば文学の中に「愛」というテーマがあると、そこで勉強していくわけです。

林 日本でもぜひそうして欲しいわね。

●一夫一婦制への疑問

和田 江守先生のいわれるように人格的結

びつきなしにはセックスをしない方が良

い、という理想はあると思いますが、現在

のスエーデン式の考え方というのも一般化してくる傾向があるでしょうね。

結びとして将来どうなっていくか、どうあって欲しいかを一言ずつどうぞ。

江守 私は、現在のように体制的に女性が男性に従属している社会でセックスがフリー化された場合には、女性が犠牲者になると思うんです。

墮胎や嬰兒殺しにみられるように、フリーセックスの結果にたいして女性が全部、道徳的、法律的な責任を負わされている。性欲がさめた途端に女は捨てられ、その際トラブルでも生ずるといとも簡単に女が殺される。

それを賛美していいのかと思うんで、フリーセックスには疑問を持つ。私は男女間の人格的な結びつきが肝要だと考えています。

相手に対する思いやりなしにセックスが野放しになったらこれはむしろ男にだけ都合が良いことになるのではないですか。

林 昨年、フランスの共産党のマルシェ書記長が「日本の女性は奴隷」と発言して、日本の指導者たちがやっきになって打ち消していたけれど、まさにそれだと思おうの

よ。

女が一人の人格として認められない、この状況は投稿をみても女自身にもまだよくわかっていないんですね。女が一人の人間として自立して生きていける社会になれば、当然セックスは今より簡単になると思いますが……。

谷内 フリーセックスに将来なっていくかという点でいえば、そういう傾向は強まるでしょうね。それはそれで、私はいいと思うのです。ねばならない式のモラルに縛られるよりはね。

ただ、今のように女性をモノ視する風潮の中では、やはり女性は相当警戒しなければならぬでしょうね。それと、夫と妻との間がスポーツをするような関係のカップルならば、他ともスポーツやってもどちらも傷つかないと思うんですけど、妻と夫の間のセックスライフが非常に濃密な、充実したものであった場合、どちらかが婚外交渉を持てば、ものすごく傷つくと思うんです。妻の権利とか何とかでなく、これだけ充実した関係を、同じ時期に他の人とも共有するというのは……。

時代がもっともっと進んでも、人間はそ

ういう悩みから解放されないのではないのでしょうか。

制度として一夫一婦制でなければならぬ、というつもりは全くありませんが、お互に相手を苦しませる、ということに対しては男も女も自主的な躊躇（ためらい）を持たなければいけないと思います。さつき私はこれを、個人レベルの貞操観と言ったけど、この言葉はあまり良くはないけれども……。

ビヤネール 大体同じ意見です。しかし女性が自立していて、制度的に貞操が欲求されなくなっていく状態をスエーデン的とするならば、日本の主婦の大半が働くことに批判的である間は、まだまだですね。

全般的なことが平均して上ってきているスエーデンと、一部の人達の考えだけが少し出て来た日本とでは、非常なギャップがある。パーセンテージからすると日本の将来に私は当分は悲観的です。

まとめ 原田静枝

サークル だより



柏サークル

四月二十二日午後、松戸市民会館で久しぶりに会合を持ちました。出席者は東京から来てくださったかたも含め十三人。

まず一六三号の感想から。「いい学校って何だろう」「地方で子供を教育して」が好評でした。

子供が入学してたった半月で、教師社会の階級制度に失望したという発言を皮切りに、学校への不満が続出。花壇の草抜きやトイレ掃除まで母親を動員、PTA広報にやたらと口を出すなど。一方父母の側も役員選出の場から逃げておいてカゲロをたたき新しいことを始める人の足をひっぱる、

PTAって必要なんだろうか、という疑問が出ます。子どもの側に立ってという原点にもどすまでに、いっぱい困難があるようです。そして、サークルで実施したアンケート「主婦の自主活動」「子どもに望むこと」の中間報告。

昭島市の山脇さんは、転勤や単身赴任に関する調査への協力を依頼なさいました。すると夫の単身赴任でイキイキした生活ができたという意見が出ます。いや、夫をヘトヘトに疲れさせ、サービスを要求するだけのつまらない人間にしているのは企業なのだという声もありました。

さいごに、まがりかどにきた「わいふ」について。ガリ版で少ない部数を作るのならともかく、今では事務量がぼう大になり企画や調査、編集活動に多大の時間を要するようになってきました。このすべてをボランティアでとなると、ゆとりがある人しか主体的に参加できなくなりそうです。伝票や帳簿の処理をしにくさるかたには、やはりきちんとした報酬が必要だ、企画ものには原稿料などの意見が出ています。会計面は、誌上で公開することも大事だと

の指摘もありました。

今回柏から松戸へ会場を変えてみたら、近いから出席してみたという新しいお顔が見えました。

新しく参加ご希望のかたは、鈴木由美子（〇四七四一四五―六八二四） 四方愛子（〇四七一―七四一七三七七）へご連絡ください。

千葉サークル発足ノ

六月十四日、千葉サークルの第一回会合を開きました。出席者は7名でした。

千葉県の他のサークルとも連絡をとりあって、将来は、合同で何かやりたいという話ができました。また、女の子をもつ母親として、乳幼児のうちから「女の子」として差別される社会環境の中で、娘をどうやって育てたらよいか学びたい、「わいふ」誌上でもそういう企画をとりあげてほしいという切実な意見も出されました。

お近くの方はぜひご参加ください。自由に何でも話しあいましょう。

連絡先・篠原照美（〇四七二―五〇一〇七

七九)千葉市作新台三一九―二十一●山
引洋子(〇四七二―四三―六六三七)千
葉市稲毛海岸一―二一八―一〇三

藤沢サークル

一六三号に載せていただいたおかげで、
五月十五日第一回の集まりを開くことがで
きました。

当日は朝から強風に加えて雨もかなり強
く降り出しましたが、妊娠九ヶ月の方が、
「家を出たのですけど、途中お腹がいたく
なりひき返したので、出席できません」と
の連絡があつて欠席の他、私を含めて四名
が集まりました。

自己紹介を兼ねて現在の心境を語り合
いましたが、一ヶ月に一度でもいいから同
じような考えを持つ仲間と、自分の正直な
気持ちを語り合うということが必要だ、とつ
づく感じました。本当にこの出逢いを大切
にしていきたいと思っています。(有賀)
「付記」第二回は、六月十九日に編集部
より和田、早川も参加して小田急桜ヶ丘・自
治会館で開かれました。出席者は六名と増
え、テーマは「夫と自分とのかかわり」

一見幸せそうな若夫婦の間にも、一皮む
けばいろいろなと深刻な問題が山積してい
るのを改めて垣間見る思いでした。数日後出
席者の一人から、この日の話し合いのあと
夫君に対してもすっきりした気持ちもてる
ようになったなどとうれしいお便りをいた
だきました。

連絡先 有賀麗子

(早川)

TEL 〇四六六―四四―五八三〇

伊勢原サークル

メンバーは六月現在九名となり、二十代
から六十代まで毎月二回の集まりを楽し
みにしています。

六月十一日(水)は、テレビ朝日「女の
広場」のビデオ取りがあり急遽集合ノ
放送は六月十七日でした。

特集テーマの「なぜ女ばかりが家事をし
なければならぬのか」については、そ
れぞれ日頃の疑問が続出し、今までそれが
当然と思っていたことの洗いなおしを是非
やらねばと全員の意見が一致しました。

神奈川県伊勢原市 中尾久美子

TEL 〇四六三―九二―〇〇九三

読書会を一緒にやりませんか?

西荻窪、あさがや、高円寺あたりにサー
クルを作って読書会をしたいと思います。
つね日頃女だからというので、色々な制約
を受けながら暮していますが、その周辺の
問題を本を読みながら話し合っていく中で
本音を出し合つて、良い仲間作りをしな
がら、楽しく歩いて行きませんか?

杉並区西荻北一―七―五 宮口純子

〇三―三九〇―九八八九

杉並区高円寺南五―一七―四 友松悦子

〇三―三一―二六三四

京都周辺の皆様

サークルの紹介が出ているのを羨しく思
います。こちらにもそんな会ができないか
なあと思つています。人頼みのようでお恥
かしいですが……

京都市伏見区向島四ツ谷池町
十四の一 五八棟一一一〇号

新柴奈良江

乳ガン体験者の会

あけぼの会の御紹介

昭和五十三年十月一日に発足、現在沖縄を除く日本全国の都道府県に七六〇人の会員がおります。年二回、機関誌「曙」を発刊、春に東京で一度、全国大会、また秋には地方で一度、地方大会を催しています。

会の目的は次の通りです。

- 一、会員同士の親睦、助け合い
集会や会誌を通じて、各人が心につもっている不安や疑問を語り合い、また医師や専門家にも参加してもらい質疑応答の機会を作る。

二、早期発見の啓蒙

乳ガンの早期発見がいかに重要であるかを広く一般に知ってもらうため、自己検

査法のパンフレットなどを配布し啓蒙運動を促進。

三、ボランティア活動

将来は会でボランティア要員を養成し、手術後社会復帰に対する不安、焦りが見られる患者のために手助けをする。

四、服装相談

特殊パット・ブラジャーなどの購入先の紹介、集会場での展示・直売などを実施する。

入会御希望のかた、機関誌購入されたいかたは、葉書で左記にお申し込み下さい。

〒106東京都港区南麻布四―一―十
二―二〇四―あけぼの会事務局



一冊の本

▼陽だまり

―知恵おくれとして育った浩史
お兄さんを理解してね―

野口あさ子著

定価千円

「私の二男寛が誕生した。「五体満足？」あなたを取りあげてくださった人々に私がおそるおそる聞いたのは、まずこのことでした。あなたの兄として生まれた浩史のような病氣を持って生まれはしないか、今度こそ心身共に健康な子供であってほしいという切なる願いがあったからです」

この冒頭の一節にあるように、著者の最初の息子は障害児であった。二年後に得た健康な二男に、「寛よ、健康に生まれてくれてありがとう。大きくなったら、お兄さんをいたわってあげてください。彼の人生が少しでも豊かになるように、協力してあげてください」

いね

と語りかける形で書かれた育児の記録なのだ。障害児の親は、その子を残しては死ねないと思うという。著者もそれを思い思い、後事を二男に托す気持があるようだが、二男の身になったら、それはほんとうにたいへんなことである。はたしてそれでよいものだろうか……しかし読み進むと、障害児も健康な子とともに育てば、最大限の発達ができること、弟はそうした兄を通じて、温い心の尊さを学び、人間的に成長していくこと……がよくわかる。

「思春期、結婚といった成長の段階で、兄の存在を悩むことがきつとあるでしょう。そのとき、私がここに書いておくことを読んで、皆から忘れられた浩史のような子供が、たくさん居ることを思い出してください」

感動的な記録である。

申込(〇三) 六〇六―〇九〇―

▼英会話サークルへの

お誘い

英会話の勉強をしてみたいけど、英語学校の月謝は高いし、外国人の知り合いもないし...と思っていらっしゃる方はありませんか。

NHKラジオ英語会話テキストの投稿欄を通じて知り合った、私たちの小さなサークルが誕生してから二年半、毎週土曜日(曜日は、

出席者の都合により変更の可能性あり)松戸市民会館で、ラジオテキストや英検問題集などを中心に、自主的な勉強を続けています。そして毎月五百円ずつ、会費

を積み立てておき、一、二か月に一回、旅行者などの英米人をゲストに招いて小さなパーティを開き、英会話の実践をはかっています。昨年招いたニュージーランド

の男性は、「結婚しても、子供を持つても学び続けようというジャ

パニーズ・ハウスワイヴズの熱意」にいたく感激。「この知的エネルギーこそ、日本を経済大国に発展させたカギだ!」(とまでは言わなかったけど)

興味のある方は、左記までご連絡下さい。

長谷川 愛(松戸) 〇四七三一九

二一五〇九

飛田 清子(我孫子) 〇四七一八

二一九四一〇

●柏サークル主催

イナゴ取り大会の

おしらせ

日時 未定(稲刈りのあと)

場所 千葉県東葛飾郡沼南町

大津が丘の田んぼ

(常盤線柏駅よりバスあり)

お近くのの方は散歩がてら、都会の方は子供たちに自然の味を、参加者にはイナゴの取り方からツクダニにするまで懇切に講習をい

たします。

参加申し込みは片山光子千沼沼南町大津ヶ丘三一七五〇六〇四七一九一〇三三四まで

▼「手探りの自立」が

本になりました!

わいふ編集部でまとめた「母親たちの自分史」に続いて二冊目の本。七八年から連載を続けていた主婦の再就職の手びき「手探りの自立」、十一篇に、新しく取材した十八篇を加え、毎日新聞社から「手探り女の自立」の題名で出版されました。

こどもの手が少し離れてから再就職しようとしても、年令制限夫の転勤その他で思うに任せず、いろいろなキャリアがあってもただの中年女になってしまう私たち。どんな適性が、どんな職業に必要なのか、第一、どの職業が本当に職場が開かれているのか。収入はどの位? など、これまでの職

業案内には突っこみたりなかった点をばっちり書きこんだ、ホントに役に立つ手引書と自負しています。

全二十九篇を通じて、下積みものしんどい仕事ばかりを当てがわれている女の状況ははっきり浮き上がってきます。読みものとしても面白いものです。柏サークルの人たちの協力を得てでき上がった、ほんとに現場からの、主婦の視点に立った一冊です。ぜひ読んでみてください。そしてお友達にもすすめて下さい。

編集部

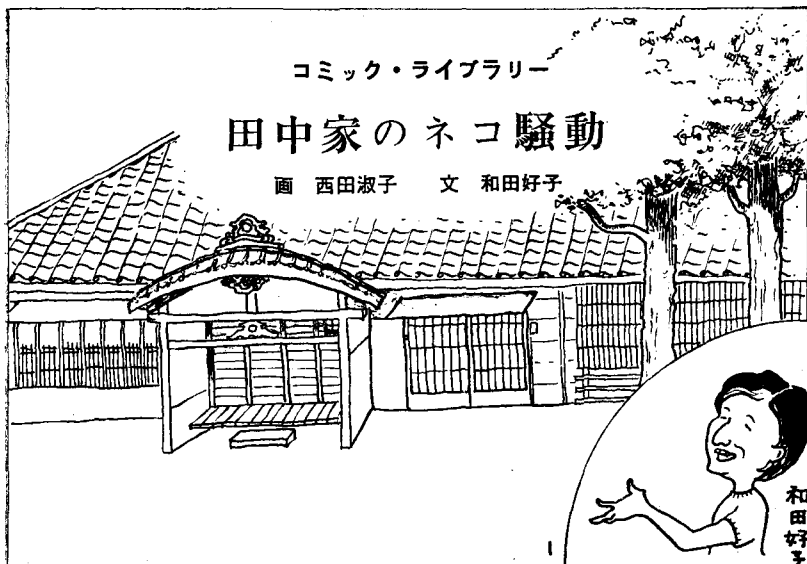
◎お願い

編集室のスリッパが、すぐボロボロになって困っています。お便りにならないスリッパがあったら寄附して下さいませんか。もし折りたたみ椅子か、重ねられる椅子もいただけたら嬉しいですよ。お電話下さい。

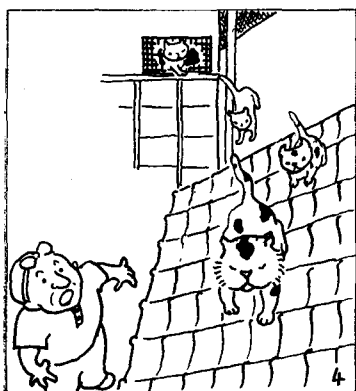
コミック・ライブラリー

田中家のネコ騒動

画 西田淑子 文 和田好子



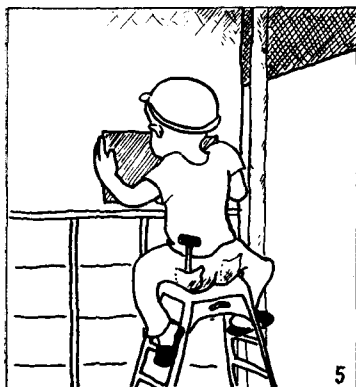
①編集部の田中さんは、百年もたったご両親の家に、二階を増築して住んでいます。



④ところが母子ネコがぞろぞろと……アッ、奥さん、出ました、出ました！



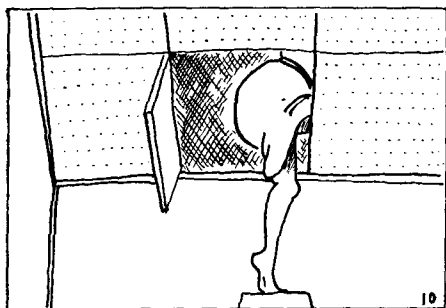
②ある日彼女の食堂へ入ると、天井に大きな穴が二つ、



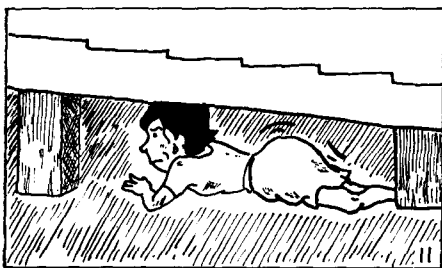
⑤というんで穴をふさいでしまった。



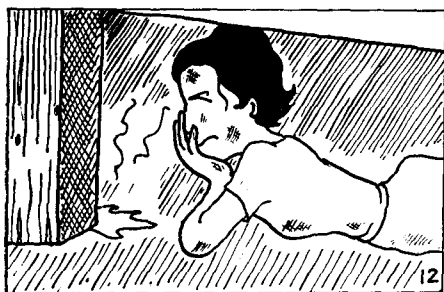
③古い家なのでこわれた壁から、天井にネコが入って子を生んでしまった。



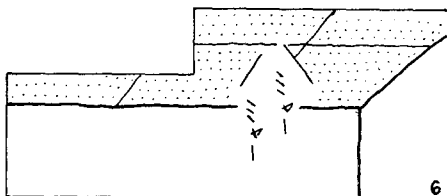
⑩叱りながら田中さん自分でのぼる。



⑪のぼってみるとそこは這っても通れないくらい低くて、泳ぐように身をくねらせて……。



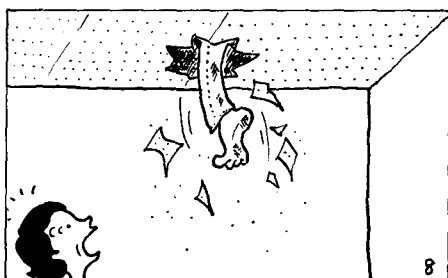
⑫その上ネコのおシッコが臭くて鼻がもげそう！



⑥それから三日め……。

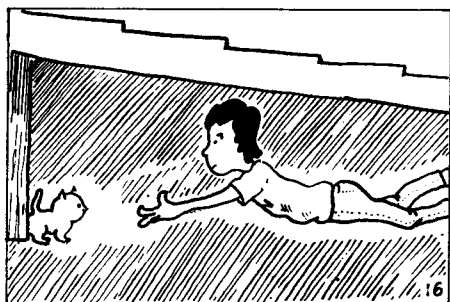


⑦とり残された子ネコがいたのです。

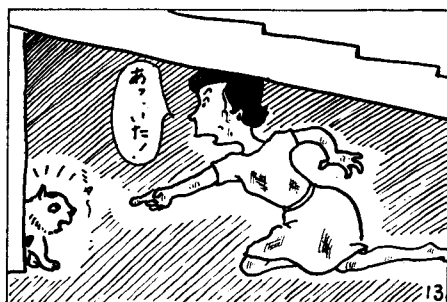


⑧ムスコの準ちゃんのがぼってゴソゴソ探そうち、天井を踏み破る。





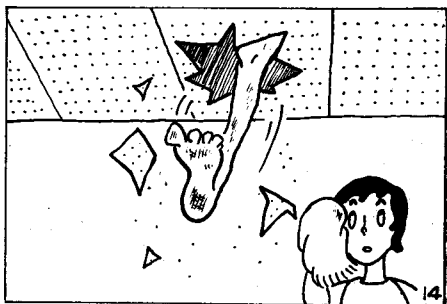
⑫ミルクの匂いで寄ってきたのを首尾よくつかまえ、



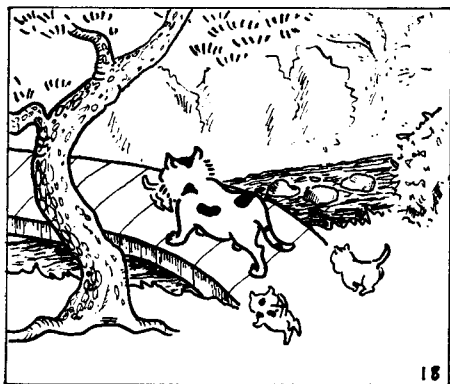
⑬といったとたん、



⑯庭へ放り出したら親ネコが飛んできて、



⑭彼女も天井を踏み破る。



⑮くわえていきました。ヨカッタネ、めでたしめでたし。



⑮田中さんは面目丸つぶれ、準ちゃんは決死隊で、手にミルクをぬりつけ、——天井裏へ……、

美容シリーズ

化粧品公害に目覚めた人々へ

パナールイオンクリーム

●パナールイオンの特徴

パナール製品の主原料は、東北地方の旧火山地帯の地下層から採出した聖徳石という薬石です。この石を一年間自然乾燥させ、微粉末にして一定の温度の湯で保温しますと、十種類からなるイオン化したミネラル群が湯に抽出されます。その抽出されたミネラルを良質のクリーム基剤乳液基剤、石ケン基剤に配合してつくられた製品です。

石油化学合成物質（タール系色素香料等）栄養剤、ホルモン剤なども一切使用していませんから、赤ちゃんからお年寄まで安心してお肌に使えます。水溶性クリームですから、みずみずしく、お化粧のりも良く、お肌の老化を防ぎ肌の若さを保つことに役立ちます。

特に肌あれ、シミ、小ジワ予防に
おすすめします。



より美しい素肌作りに
自然の地質から抽出された……
16種の天然ミネラルイオン配合

わいふ愛読者の皆さま方へ
サンプル無料進呈

パナール製品は、先ずお客様にサンプルを差し上げ製品の優秀さを確認して頂き、お客様の要求に応じてお求めいただく、当社独特の販売方法をとっています。

ご希望の方にはサンプル・資料をお送りします。下記までお申込み下さい。

パナールイオン
販売株式会社わいふ係

●必ずわいふ係と明記して下さい。

東京都新宿区2-5-10 日伸ビル
TEL 03(352)7643-5

●試験結果 聖徳石1%浸出液の定量分析報告(水1kg中の成分・分量)

水素イオン(H ⁺)	1.613mg	鉛イオン(Pb ²⁺)	0.160mg
カリウムイオン(K ⁺)	28.14mg	ヒドロ硫酸イオン(HSO ₄ ⁻)	44.61mg
ナトリウムイオン(Na ⁺)	135.40mg	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	829.2mg
アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺)	0.516mg	遊離硫酸(H ₂ SO ₄)	0.177mg
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	35.92mg	メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	23.97mg
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	1.313mg	亜硫酸(AS ₂ O ₃)	0.130mg
鉄イオン(Fe ²⁺)	174.2mg	クロールイオン(Cl ⁻)	痕跡
マンガンイオン(Mn ²⁺)	0.094mg	亜鉛イオン(Zn ²⁺)	検出せず
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	10.76mg	フッ素イオン(F ⁻)	検出せず
銅イオン(Cu ²⁺)	0.336mg	磷酸イオン(PO ₄ ³⁻)	検出せず

(分析 国立衛生試験所)

こわい野菜？

都会地の無農薬農場

③

一六二号に載せた農協、行政側の話に対して疑問や反論もいただき、一六三号エコー欄に載った無農薬野菜と真剣に取り組んでおられる読者の体験談は、私をも含めて平均的主婦が毎日台所を預りながら、単に値段とか、料理法とか、もりつけ方ぐらい

にしか神経を使っていない浅はかさを思い知らせてくれた。

今回は、東京都内で野菜の無農薬・有機栽培を目ざして実践している二つの農家を紹介し、そのありかたと私たちの生活を結びつけて考えてみた。

団地に小さな店を出す石坂農園

162号の特集リポートでも報告されたように、団地と分譲住宅によってすっかり変貌をとげた多摩丘陵も、少し奥まった所に入れば、畑が広がり、農家が点在している。

石坂明紫さん（60歳）は、勤めをもつ息子さん一家と暮す今も、老夫婦で一町歩の畑をあずかり、毎日農作業に忙しい。

「自分で働いて手に入れた土地だから、惜しくって手放せないんだねえ。昔は一日百姓仕事をやって、この辺の土地が一坪買えたんですよ」

取れた野菜はたばねたり、ビニール袋に分けたりして、その日の新聞の市況を参考

にして値段を決め、週に一度、近くの団地の広場に運んで売っている。

彼は、どうせなら、味がよくて体にも安全な野菜が作りたいし、売りたいくて、できるだけ農薬を使わず、味のよくなる肥料を使うよう心がけている。

幸い雑木林も持っている彼は、落ち葉を集めて大量に堆肥を作ることができる。それと魚粉入りの配合肥料を使っているという。鶏糞を使うと大きくはなるが、とたんに味がおちてしまうそうだ。

団地に店を出す火曜日には、彼の店のすぐそばで団地の自治会の人達が、種類も量もはるかに多い野菜を安く仕入れて数人で手分けして安売り野菜市を開く日でもある。

火曜日に行ってみると、この団地の野菜



●ほうれん草を取り入れる石坂明紫さん

市と同じくらいの人だから、石坂さんのほんの小さな、数種類の野菜をチョコチョコと並べただけの店にもできていた。「一度買ってくれると、味がいいからってお客がつくんだねえ。里芋なんか一袋百三十円で売ったんだが、おいしいおいしいって全部売れちゃって、種芋がなくなっちゃったくらいでねえ。市場を通さないから、形の悪いものや小さいもの、曲がったキュウリも、味がよけりや全部売れるから助かるよ」と、この日は一日中店番に立つおじさ

んはゴキゲンである。

値段だけ比べると、確かに全般に団地の市場の方が安いようだが、主婦たちは、他にも目をつけるところがあるのだろう、よび声一つあげず「いらっしやい」ともいわず、ただひっそりと、本当に農産を全然使わなかったものにだけ、「無農薬」の表示を掲げて、丹精の野菜を前に坐っている、このおじさんの所にも大ぜい集まって来ている。

一週間の間に収穫し、家族が食べる分を除いた量は、この日一日で、この団地だけでさばけるそうだ。

値段は、市況より少し高い位の所を大体つけているが、中間マージンを取られないから、八百屋のものより安くなるものも多い。堀りたてのたけのこなど、それだけの価値のあるものには高目の値をつけるが、これらの売り上げは、土地の税金代ぐらいにしかない。

石坂さんがやっている低農薬、有機栽培にも苦勞がつきまとう。

畑は次から次に使うと病気が出るので、年に一回しか使わない畑もあったりして、全体の四割ぐらいしか一度には使わない。



●堆肥のための落葉を物置に一ぱい保存して

収穫して売りに出す野菜は五・六種類でも、これから収穫するものも含めて現在作っているものとなれば、二十種類をこえるだろう。丹念に除草された広い畑を歩いてみると、本当にいろいろと沢山植えてある。ポツポツと虫喰い穴の一ぱいあいた小松菜、やわらかそうなほうれん草、鳥に喰われたカブの葉、雑木の細い枝にからませたえんどう豆、ビニールをかぶせたトマトやキュウリ、別に育てられているさつま芋の苗etc……。このうち、どうしても農薬なしではできないものはトマト、キュウ



●ポツポツと虫喰い穴のある小松菜

リ、キャベツだが、特にキャベツをめぐるモンシロチョウとの闘いはどうしようもなく、キャベツには一番多く農薬を使うので、少ししか作らないそうだ。昔はトマトもちゃんとできたのに、昭和二十七・八年ぐらいから急に病気が出たしたのは、空気が汚染されてきたからだろうかと思をかしげる。

菜っぱ類は最も簡単に無農薬でできるようだが、鳥の害もかなりひどくて悩みの種だ。また堆肥をやっているとみみずが増えすぎるのも困る。みみずはいいというけれ

ど、あまり増えすぎると作物ができなくなったり、もぐらが来たりする。しかたなく石灰をふりかけながら堆肥を施し、これを防いでいる。

新でお風呂をわかし、かまどで御飯を炊き、何でも自分の手で作ることが好きで、堆肥用の落ち葉を保存する大きなざるから、作物を取り入れる小さなざるまで全部自分で編むという、石坂さんの手は黒く大きいくたくましい。

契約栽培の大平農園

世田谷区尾山台の、駅に近い住宅街に居を構える大平博四さん（47歳）は、一町歩の農地をもつて、三百年間、十一代続いた農業をいまでも守って生きている。

その長い歴史をもつ家業は、戦前、つまり祖父の代まではずっと無農薬農法であったと彼はいう。

ところが戦後、父母の代になったとき、食糧増産政策の推進で農薬、化学肥料が大量に使われるようになり、祖父の、「そんなもの使わなくなったって、ちゃんとできるのに……」という言葉をやよに、二十五

年間化学農法を続けてしまった。

その結果、強度の農薬障害で父上が命を落とし、母上も農薬の後遺症で今も体が不自由、大平さん自身も左耳が聞えず視力も奪われるという悲惨な体験をした。

農薬に頼る農法の恐ろしさが身に沁み、彼は、父の死以来、ブツツリと農薬も化学肥料も断つ決心をした。十三年前のことである。

無農薬農法に戻った最初の年、作物は全部虫や病気にやられて、収穫は皆無であった。しかし、ここで薬を使ったらダメだと貯金をおろし、生活をきりつめながら頑張った。90歳をこえながらピンピンして生きている祖父を生きた証人として、昔に戻ることを目標に、堆肥作りに励んだ。

三・四年で地力が回復し、虫や病気に強い作物が育つようになって、収穫も上りだした。

変ったことをしているというので話題にもなり、買いに来てくれた人から、「おいしい」という噂が広まって、八年前から消費者との契約栽培にしている。二、三ヶ月で三百人の消費者が集まり、作るほうが一人ではこの位が限度なので、今ではことわ



●住宅地の中の大平農園

るのに困るほどである。

この農法の中心になるのは堆肥である。植木屋と契約して木の枝をもらい、学校給食に野菜をまわすのとひきかえに、世田谷の十四の小学校から残飯をまわしてもらい他に古たみ、馬事公苑の木の葉、馬糞などから、年間百トン以上の堆肥を作って、専ら土作りに精を出す。

こうしてできる野菜は年間四十種類になり、自分の家で食べる分も残らないほど引く手あまたの現状である。

大平さんの実働時間は一日十五時間。その半分は堆肥作りにつきこまねばならないが、以前の化学農法に比べて次の三点から特に、この農法に切りかえてよかったと思われるそうだ。

① 収量が上がること

一般に、無農薬にすると収量がガタ落ちになるといわれるが、それは切りかえた直後のことで、それにめげず地力さえつていけば、三～五年で回復し、以後どんどん伸びていくという。

しかし、一度にきりかえようとすると、一～二年は無収穫を覚悟しなければならぬいからきりかえ法を考える必要がある。例えば、最初は全農地の 1/10～1/20 だけ無農薬、有機農法にしてみる。また、比較的作りやすい根菜類からはじめるなど……。そして徐々に無農薬の部分を増していくとよいそうだ。

「でもその場合、無農薬の部分に虫が集中しやしませんか？」

「うーん、まあ、最初のうちはたかるかもしれないけど、自然界ってのはもともとバランスよくできてるものなんです。害虫を食べてくれる益虫も出て来るようにな

るわけです。本物の土を作っていけば……。

そうすれば数年で虫の苦勞もなくなつてきますよ。また、市場で売れるものばかりを作るんじゃなくて、土のために良いものを輪作で作ることが必要なんです。野菜ばかりじゃなく、粟とか麦なんかもね。いまそんなもの作つたつて売れないものだから誰も作りませんがね。そういうものが畑に必要だし、結局からだのためにもいいんですよ」

無農薬農法と有機農法（堆肥農法）とは切っても切れない関係にあることがよくわかった。

② 出荷率が100%であること

市場では品質よりも出す量によって値段が決まり、出荷率は10～50%とその日によってまちまちだったりするが、消費者と直接結びつけば、どんなものでも全部売れるので、暮しはずっとらくになるそうだ。

値段は一年平均の八百屋の値と同じに決めている、一般市場のような上り下りがなくいつも一定であるのは、生産者側にとっても有難いことだという。

「普通八百屋は仕入れの五倍くらいの値をつけて売ってますからね。八百屋の値段で



●堆肥作り

売れるってのは、農家にとっちゃ夢なんですよ。それが安定して100%売れるんですからね、こりゃ普通の農法じゃ逆立ちしたって追いつけやしませんよ」

③ 精神面でやり甲斐がある

野菜を作っても、ただ市場に出すのとは違って、消費者の喜びが直接はね返ってくる。消費者のうち八割が幼児をかかえた家庭だが、月に一度の代表者の集まり、順番に月に一度ずつ午前中二時間の授農（草取り作業など）の折に直接消費者の声も聞け

るし、生産者側からの話もできる。

大平さんとしては、そのためにわざわざ草を残しておいたり、話をしに行ったりというようなサービスにこれつとめねばならない一面もあるが、生産者と消費者は、やっぱり背中合わせであってはならない、運命共同体なのだから……と、彼はいう。

「野菜が割当て制だとね、例えば三人家族にそら豆が一箱半も来ちゃって、毎日そればかり食べなきゃならなくてうんざりしたなんて話をよく聞くんですけど……」

「それは生産者のエゴですね。私の方では、集まりのたびに量についての感想もきくようにしてるし、できるだけ種類をふやすよう心がけて、過剰に押しつけることは避けるようにしてますがね。大体一回に出す種類は三〜十種類、一人一回の平均支払金額は千五百円ぐらいですよ」

本当の農業を目指してはじめは死にもの狂いだっただが、軌道に乗りだせばこんならかな農法はないという。

このような都心で有機農業をすることこそ必要で、また、堆肥の材料にも困らないし、需要も多いなど、都会地だからこそ可

能なのだと彼はいう。

「確かにそうですが、こんな住宅地の真中で堆肥農業をすると、臭いや蚊や蚊などの苦情が、付近の住民から来ることはないでしょう」

「いや、それがね。本物の熟成した堆肥というのはいくつもないし、はえも蚊もみみずも出ないものなんです」

「へえ——、みみずはいっていますけどね」

「それは素人の考えだね。まあ、残飯など扱っている時はおいいますがね、それも発酵しだして堆肥にまぜてしまえば、臭いはなくなるんですよ。」

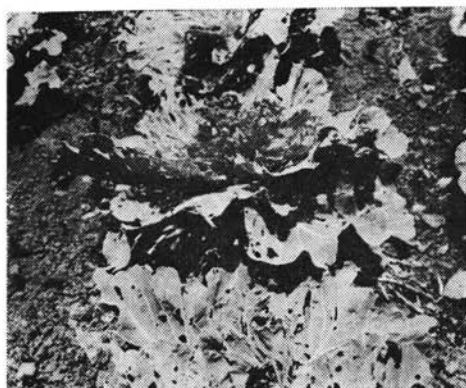
ただ一つやりにくいのはね、税金なんです。どんどん上る一方で、今年に一反歩当り七十万円納めてるんですが、すぐ百万になるだろうし、農地の宅地並み課税なんていう案も出てきてますしね……」

農業が、工業にも商業にも支配されずに農業のままで消費者と結びついていけるための、都会地の数少ない農地を、政府は奪おうとしているのだろうか。

作る側と食べる側と

大平さん宅から少しはなれた、これも住宅地のまん中に、一町歩の畑はあった。農地の入口には、なるほど木の枝の束が山と積まれ、堆肥が大量に作ってあった。土は柔らかく耕してあり、ヌカのまいてある所もある。いろいろな野菜が植えてあり確かに片隅には粟もあった。

今をさかりと実をつけているのはキュウリとトマトである。キュウリも真直ぐなも



●キャベツ畑

のが多く、一見良い出来栄えのようだが、よくみると、あちこちに黄色くなった葉が見られた。

キャベツ畑には、やつぱりモンシロチョウがとびかっていた。これがキャベツの一つひとつに卵を生みつけていくから、あやほり、ずい分幼虫がキャベツを食べてしまっている。中には、レースみたいになってしまっているのも……。葉はまだ巻けていない。一体これはどうなるのだろうかとか来客のため同行できなかった大平さんに電話で伺ってみると、

「それはね、陽気のせいなんです。今年は異常でしたからね、あんな風になってしまいました。あれはもう取り入れて消費者の方にお渡しします。もうこれからはキャベツはダメだから、あとは冬に収穫するものを作るだけです。」

キュウリやトマトの黄色い葉ですか？
それは病気ですが、大丈夫ですよ。無農薬の場合は、子づるや孫づるができますからね。収量はそんなに落ちない筈です」とのことであった。

無農薬の野菜を手に入れることは、こうして時にはレースのようなキャベツを買わ

ねばならないことにもなる。

「消費者との直接契約でなければ、この農法は成り立ちませんよ」という大平さんの言葉が、なるほどと思いつくのだ。

この農園を出た所で、一人のお百姓さんに会った。彼は太平農園のとなりの畑に、かぼちゃなどを植えている。この人はこんなことをいっていた。

「わたしは二反五畝の畑を一人でやってるんですがね。ええ、農薬も使ってます。そんなにひどくは使わないですがね。八百屋に直接出してるんだけど、純益は年間五十万にしかないんですよ。これじゃとても暮せませんじゃないですよ。他にアパートも持ってるんだけど、この収入は土地の税金に全部持っていかれちゃうしね。ええ、他にも植木を植えたりしてる土地もあって、評価額は十五億だっていうんですがね。息子はこんなバカバカしい百姓なんていやだって、大学出て勤めてますよ。」

ああ、大平さんのお父さんはハウス栽培の草分けの方でしてね。トンネル栽培の功労者として黄綬褒章をもらわれたこともあったりして、強い農業を沢山使われたんで

すね。お気の毒なことをしました。

わたしも大平さんみたいに契約栽培にすれば暮しはらくになるんだけど、無農薬じゃろくなものができませんからね……。健康ですか？ まあわたしは使う回数も少ないから大丈夫と思いますがね」

この辺が一般の農家の本音であろうか。そういうえば、大平さんのこんな言葉を思い出す。

「無農薬有機農法は息の長い農法ですからね。後継者が居なければなかなか踏み切る気になれないです。うちは幸い、娘なんです、後を継ぐ決心をしてくれましたが、これからはどんどん、農家の若い後継者に、この農法を実践してってもらいたいですね」

朝から晩まで休日もなく働いて得られる収入は不安定。この冬白菜御殿が建ったなどという話には驚かされるが、全般的には低賃金重労働というのが一般農家の実態であらう。後継者も育ちにくい現状である。

大平さんの父君が亡くなったように、農薬についても、一番被害を蒙っているのは農家自身なのに、「化粧価値」が一番に評

価される流通機構や、農薬をまかなければ病害虫の被害を補償してもらえない農業共済制度や、薬漬けになるほど農薬を並べた「防除暦」（指導機関から出されている、予防的に農薬を散布していく計画表で、そややらなければ心配だと思ひこませるようにならされている）によって二重三重にしばられて、しかたなく農薬多用に陥っていく農家の実体を、雑誌「現代農業」で知ったときは、何とも暗然とした。

消費者との直接契約にすれば、農家自体も豊かになり、消費者も出所のはっきりしたものを安心して食べられる。

「野菜を見ただけでは安全性はわからないから、信用できる人間（農夫）を見つけたさい」とは、大平さんの言葉である。そういう人をどう探せばいいのかわからない人は、日本有機農業研究会のような所に問い合わせすることもできるという。

しかし、こうしてわれもわれもと、ノアの方舟に乗り込んでいくだけでいいということにはならないだろう。

大ぜいの消費者を組織できない地方の農家もあるから、市場制度は残るだろうし、やはり、どここの店にも安心して食べられる

ものだけが並べられていてほしいと、痛切に思う。

そのために私達にできること——それは見てくれや大きさにだまされず、安全性を確認し、出所を知りながら、食べものを求めていくこと、また作り方や流通機構についてもっとよく知り、安全で美味しいものをできるだけ安く手に入れるために、一人ひとりが声をあげ、あやしげなものは買わないという行動を起すこと——こんなことぐらいだろうか。

「季節に合った野菜は、それほど農薬を使わなくてもできるものです」と、大平さんはいう。八百屋に並んでいるものの中から、しゅんの野菜を選んで食べるのも、自衛策の一つであらう。

が、そういうわれても、今はどれがしゅんなのかもわからない都会人が多いときく。次頁に一覧表を掲げておいたので、参考にしてください。

（早川 裕子）



— 53 —

囚われの女たち I

落のとう



山代 巴

三家

ウイチさんが金筋の服と出世とに目がくれて、待ちこがれている妻子を忘れ始めるころ、舅姑はわが子をそれぞれにかたづけて、親のつとめも終り、これから先は古い狭い藁の家をこわし、新しい広い瓦の家を建てようという心で一杯でした。

いろりを囲んでも、畑に出て、話といえは、

「人間というものは家だけの値うちしか出ぬものじゃ」

「出る所へ出れば家が物をいう」

「家が人のねうちをきめる」

「人間はいつ医者にかかるかわからぬが、医者どんは家を見い見い脈を取るげな、それはたしかじゃ」

「お寺どんは家を見い見い葬式の経文を読むげな、それはた

しかなことじゃ」

「お寺どんは死んでから、仏になった者の位をつける時、家を見い見いきめるげな。これもたしかなことじゃ」

「家じゃ、家じゃ、何でも家じゃ。うちでもウイチがもどつたら、普請ふしんをするぞー」

「普請をするぞ、普請をするぞ。わが一代には普請をするぞ」
「じょうじゅう、じょうじゅう馬鹿におうて、呼び捨てにおうたのを忘れはせぬ。普請をするぞ。普請をするぞ。普請をして見かえてやるぞー」

と、こういう言葉をくりかえしました。

そのころ、機を織るウイチさんの妻は、子供が一年生に入学した年は、

「一年生よ一年生、私の子供も一年生、私も尋常一年生よ」と鼻歌にオサの音も軽く、学校帰りのわが子をつつ楽しみがふえました。

子供が二年生になれば、

「二年生よ二年生」

と自分も二年生になったような心で、日をおくるのを楽しみました。こんな風にして、六年の年月は、子と共に矢のように走ってすごしました。

「親子ほどよいものがこの世の中にどこにあらうか。子ほどよいものがどこにあらうか。私には子供があるのだ、その子は誰に似たのかやさしい子だ。私のためにといつては、誰も一度も言ってくれたこともない、

『足はつめたくないか』

『足火鉢の火は消えないか』

という言葉、あの子に誰も教えはしないのに、あの子は、

『おかあ、足はつめたくないか』

『足火鉢の火はあるか』

とあぐれ心配してくれる」

と鼻歌にうたうのは心から楽しい。けれどもまた、姑は運動会でも学芸会でも、

「嫁ご、わが子のことじゃ、見に行つて来い」

と、ついぞ一度もいつてはくれません。いつてくれないのに出かけたら、

「親のいうことが聞かれないか。聞かれぬ者は出て行け」

と、たたき出されるのが恐ろしくて、六年の間、とうとうわが子の運動会も、学芸会も、一度も見ることができませんでした。

それだけではありません。家庭訪問だといって先生が尋ね

て来られても、姑は、

「おかあのように、機を織ることしか知らん物知らずが先生様に物をいえば、ミーが恥じをかく、ひっこんでおりんさい」と言つて、母親には、

「先生うちの子はどのようなのでしょうか、よろしゅうお頼みします」

と一度もいわせてはくれませんでした。それは心から辛く悲しいことでした。

そういうウイチさんの妻、ミーさんのお母さんが、わが子のために始めて村の小学校に出かけることが出来たのは、子供の卒業式で、校庭には桃の花が咲いていました。子供らは声をそろえて、

「年月めぐりて早や六年

卒業証書を受くる身と

なりつる君らの嬉しさは

そもそも何にかたとうべし」

と歌つて聞かせました。それからというものの、「春になって桃の花が咲けば、この歌はどこからか耳底に聞えて来て、涙をわき出させるのです」とミーさんのお母さんはうたいました。

朝鮮北端で国境警備をしながら、我身の出世でせい一杯のウイチさんも、わが子のことには気にかかると見えて、

「我子は大学までも行かせ、位の高い役人にしたいから、県立の中学校へ行かせてくれ」

と手紙をよこします。子供は遠い町にある、県立の中学校へ

見事一度に合格しました。子供がいよいよ旅立つ時、母親は峠を越えて、停車場まで見送りました。

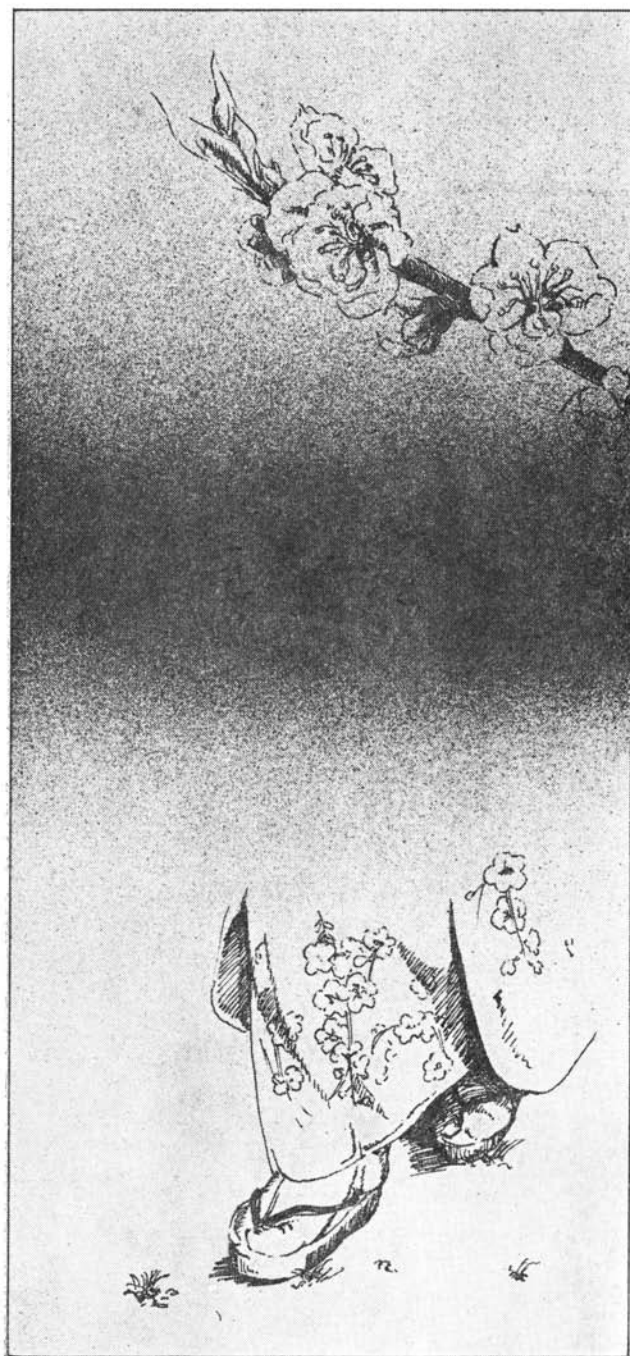
母親にとって停車場は悲しい所でした。汽車は無慈悲な車に思えました。汽車が一度動き出したら、たちまち子供の姿は小さくなって、見えなくなりました。

汽車が停車場を離れてから、母親は柵をくぐって、レールに耳をすりつけました。汽車が遠くの山をまがって見えなく

なり、ゴーツとレールの底に響いて来る音が聞えなくなるまで、母親はレールから耳を離しませんでした。

母親がやっと立ち上った時、母親の懐から、柔かい草餅が二つ、レールの上に落ちました。それは家を出立つ時姑が、「駅まで行く道々、あの子に食わせてくれ」といって、懐に入れてくれた餅です。

何でも惜しくてもつたいないばかりの姑も、この孫ばかり



には、食わせたいばかりで、夜明けから搗いてくれたよもぎの餅です。

母親も食べさせようと思ひながら、つい子供の話に氣を取られて、今まで忘れていた餅です。丸い緑の草餅が二つ落ちてゐるレールには、カゲローが燃えていて、レールをかこむ麦の畑の上に、昼の太陽は輝いておりました。レールの二つの線が一つになって、見えなくなるあたりは、霞とカゲローでぼやけていて、そこを眺めていると、また悲しみがこみ上げて来て、母親は再びレールに頭をすりつけて泣きました。母親を幸いにする、やさしい親切な言葉を皆持つて、子供は遠い所へ行つてしまつたのです。

太陽が沈むころ、子供もいない、夫もない山の方に向つて歩いて帰る時、足は重く、暗い穴の中へ一人ではいるような不安と悲しめで、胸はとざされて行きました。

けれども、子供からはやがて手紙が来るようになりまして。わかれてみて、いよいよ親子ほどよいものが、この世の中にどこにあるかと思われるのでした。

母親は息子から手紙が来るたびに、息子に手紙を書いたたびに、遠くの方で幸いが待っているように思われて、また新しい喜びが湧いて来ました。

ウイチさんは国を出てから、十年たち、二十年たつても帰ろうとはしませんでした。舅も姑も、

「わし等が元気な間に、ウイチが帰つて来るように思われな

い」

「わが家の普請をしてくれようとは思われない」

と言つて、自分らが一代の間、爪の先に火をともしようにしてたくわえた貯金のすべて、

卵を売つた錢

畑のほとりの果実を売つた錢

あずかり牛のもうけ錢

息子達が出稼ぎで送つた錢

娘や嫁が賃機を織つてあづけた錢

それ等をみな惜しげもなく投げ出して、総瓦の母屋の普請に取りかかりました。何年かたつて普請が終つた時、一代の苦勞と儉約が花と咲いたかのように、油瓦の母屋と納屋の屋根は、まばゆいばかりに輝きました。

舅と姑は、孫が入営する祝の幟も輝く瓦の屋根の下に立てて大満足でした。

ウイチさんは国を出てから、ちょうど二十四年目、人並すぐれた手柄と、長年の精勤で警部に出世して故郷へ歸つて来ました。

輝くほどの、油瓦の屋根の下では、舅の七十七の年祝と、ウイチさんの出世祝とをかねた祝いの宴が催されました。

親類の者、村の有力者、近所の者らが太勢でにぎやかに、呑めよ歌へよと大にぎやかをしました。

ウイチさんは劍舞を舞うといつて、警部の正服もいかめしく、金ぶちのメガネの下に光る眼をギラギラさせ、鼻ヒゲを両方にネジ上げて、長い劍を振りまわし、振りまわし、国境警備の歌をうたいました。その姿も、声も、村の人を恐れさせたと言ひ話です。

ウイチさんの妻は、人々にすすめられるままに、この時ばかりは遠慮もせずに、

「うちの背戸の、ミョウガ目出度や、落は繁盛^{はんしやう}」と鈴を振るようにきわ立って美しい声で歌ったということ、人々は驚いたという話です。

四 夢

ウイチさんは、まだ祝い客が居る間から、「これから、私は土蔵と離座敷をたてるんだ」と言い出して、やがて工事に取りかかりました。

その工事は、ウイチさんが故郷へ帰ってから、満二年もたたないうちに終わりました。土蔵は白壁で、座敷は床つきで、四方に縁側のある、いずれもこの地方の旧家でなければ見られない立派なものでした。

この工事の間中ウイチさんは、鋏^{くは}一つ握ったこともなく、牛を一べん手がけたこともなく、暇さえあれば、峠の向うの町へ行つて、時には十日も家へは帰りませんでした。家へ三日居れば、町に七日という風に、家より町の方へ多く住みました。

近所の人のかげ口によれば、

ウイチさんの泊る家は女の家で、女はこの辺から朝鮮^{しやうせん}へ酏^い婦^ふに売られた者で、器量がよいのに利巧で、口も立つし手もたつし、酏婦にはもったいない程の女であったから、朝鮮で偉い役人に見出されて、その役人の妾になり、長年の間には

親元へ相当のしおくりもし、親元には一身代つくったという噂^{うささ}なのに、主人が死んで、ねうちのある株券も債券も、表向きに出せない財産は皆妾のものとなり、女はその財産を持つて内地へ引き上げたのだそうで、絹物の着物は毎日着かえられるほど持っているし、夜具も総絹で、衣裳と夜具だけでも一身代あるという話です。

この女と、ウイチさんとは朝鮮からのなじみで、ウイチさんが離座敷を建てるのは、この女の注文だということでした。

ウイチさんは家へ帰ると妻にあたり散らかし、蹴りもたたきもします。妻がたたいたり蹴られたりする時、舅や姑はそれを止めもせず、

「あれだけ気が強うのうては、世間へ出て出世は出来ん」
「ああやって朝鮮人を恐れさせたわい。あれなら恐れるわい」

と、むしろほめでもするように語り合うのでした。ふだんでも、ギラギラ光る目で睨^{にら}みつけているように見えますから、妻は人の陰口や、噂が、ほんととかうそか一度聞いてみようと思ひ暮しても、聞いて見るような折はついにありませんでした。そのうちに、陰口がほんとに実を結ぶ日が来ました。離座敷に新しい青畳を入れる日、ウイチさんは、

「この座敷には、町にいる私の女を住ませるんだ」といいました。姑が、

「離座敷の掃除をしておけ」
といいましたから、ウイチさんの妻が新しい青畳を掃いてい

ましたら、いきなりウイチさんがとんで来て、
「畜生、アカギレ足でこの畳を踏むな」

と言うが早い、妻を引っぱり出し、縁側から外へけり落しました。けり落された妻は、腹が立つのか、腹を立てまいとするのか、泣きたいのか泣くまいとするのか、自分で自分の心がわからなくなり、声も出さず涙も出さず、口の中で唯わが子の名前を呼びました。

「ミーよ」

「ミーよ」

「ミーよ」

「ミーよーミーよー」

「お前は今どここの戦場にいるのか、ミーよー」
とあてどもなくそればかりを呼び続けました。

舅も姑も、ウイチさんが町の女をこの家に入れることを、前からちゃんと知っていたのか、今日この家に荷物を運んでくることまで知っていたのか、新しい白壁の土蔵をあけて、いそいそと掃除をしています。

ウイチさんの妻は、井戸端や土蔵の裏を、

「ミーよー。ミーよー」

「お前は今、どこで私の事を思ってくれているのだ、ミーよー」

「私は私は、どうすれば良いのだミーよー、ミーよー」
と細く叫びながら、つぶやきながら、さまよっていました。

近所の人もその姿を見ました。

町から牛車が来て、間簞笥が一つ二つと、土蔵へ運ばれま

した。姑は嬉しそうに簞笥をなでていました。今まで長いこと、

「家だけは建てたが、家に似合う道具がない。衣裳がない」といい暮して来た姑は、手がけたこともない間簞笥や沢山の荷物が、突然神様からさずかりでもしたように嬉しそうに、それらを運びました。長年自分の家の嫁として使って来た女が、細い声で叫びながらさまよっているのを見つけると、邪険この上もない顔つきになって、

「あっちへ行け、気ちがい」

「出て行け、いることがない」

といいていがみ（顔をゆがめてのしる姿）をしました。

「私はきちがいになったのか知らん」

と思いつながら、ウイチさんの妻が井戸端の方へ行くと、そこでは近所のおなご衆がほそほそと、

「朝鮮人をえっとむごいことをして、えっと泣かして、金筋をもろうたのよ——」

「陰では道ならぬことをして身代を稼いでの——」

「表向きに出せぬ物を妾にかくさせた身代よ——」

「人の恨みのかかった物を持ち込んで、ろくなことになったためしがない」

「天とうさんもあることじゃ。恨のかかったものは火を呼ぶか、水を呼ぶか、見とるがよい。ろくなことにはならんから」

と話し合っておりました。

日暮方、人力車に乗って町の女と女中が来て、まっしろい

絹足袋で離れ座敷の青畳を踏み、静かに障子をしめました。
ウイチさんの妻は、それからあとのことはとりとめて覚えておりません。今も耳底に残っているのは、離れ座敷の笑い声だけです。

どうして、どうやって、あの家に火をつけたのか、今もはっきり思い出せません。

家に火をつけて、三十年なじんできた井戸のツルべ綱をしつかり握り、誰もいないその底へ、最後の身をかくそうと落ち行つたのに、だれ達がどのようにして、またこの世へ引き出したのか、気がついた時には、警察の調べを受ける身となっていました。火をつけたけれど、見ようとはしなかった。焰は燈火管制の真黒闇に燃え上り、ギラギラと光り輝いて

いた油^{あぶら}瓦^{がら}の母屋、納屋、土蔵、離れ座敷をたちまち火柱にかえて、町の女の簞笥を取り出すひまもなく、唯灰だけを残したという事です。嫁いで三十年の、気がねのこりかたまり、冷い寒いひもじい、そんな思いの凝り固まりも、みんないっしょに火になって、火柱になり、恨みのこもった物は皆焼いてしまったというのに、その火の色を放火犯人は見ようとせず、ほんの少しだけでも見てはいないのです。

燈火管制下の放火だから、懲役十年が申し渡され、ジョウジョウシャクリョウというお情けで、八カ年の体刑を三次^{みよし}の刑務所に受けることになり、赤い着物を着る身となりましたが、息子はそれでもやっぱり、母のことを思ってくれていると見えて、刑務所の母親に、支那大陸にいるという息子の手



紙が、一度来ました。それには、

「お母さん、寒いでしょう。けれども元気で暮して下さい。

私にはお母さんの気持ちがよくわかっています」

と書いてありました。それから一年たっても、息子の手紙は来ません。手紙というものは誰からも来ません。面会もありません。

息子よ、遠い支那の戦場で、死んでいるのか、生きているのか、風のたよりでもよい、母はそれが知りたい。

息子よ、寒い雪の刑務所に、五十女で年越しをする母を待っている息子よ。

人間は、何の楽しみもないはずの刑務所で、五十歳を越えても、春はやっぱり待たれるものだよ。

何年ぶりかで、雪の中に路のとうが頭を持ち上げているところを見つけたよ。

刑務所で、雪の降る晩に、夢の中でみつけたよ。

「路のとうは十歳になる」

と歌う声が耳底に聞こえているよ。という物語りです。

だれにも認められない、悲しく淋しいはずの人は、いつも雪の中の路のとうを歌っていたという、そういう物語りの歌を、だれにも聞かれないような細い声で、独房に一人歌っている人は、一体どんな人なのか知りません。けれども、歌うこの人こそ、この物語りの主人公であるのではなからうかと思われました。

なぜかと言えば、それは人間が自分に言い聞かせる心の歌のように。

人間が最も生きがたい時、からだ中の細胞に勇気を送り、団結させ、元気を蘇よみがえらせる秘伝のように。

うめきも、悲しみも、なげきも、一つになって、暖い光に満ちた自由な春へ、進軍する声の大軍のように。

またある所は故郷の山脈の、谷間からしみ出している泉のようになつかしく。

つきることのない熱情をこめて歌われていたからです。

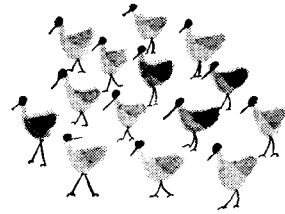
そういう歌を、私は、たえまない雪風の音といっしょに聞いていました。

雪風は、姿のない人間が歩いているかのように、いつもコツコツと廊下のドアや窓をゆすぶり、廊下のタタキ道を、サツサツと歩く足音のように吹きすぎてゆきました。

(この章終わり。次の章は次号)



おしゃべり



「子どもの成長と共に」

大阪市城東区

堀田 恭子

4歳になる上の子が幼稚園に入園しました。第一日目の第一声は「楽しかったよ!」でホッとしています。手作りのお使い袋を用意したりタオルにかけひもをつけたり、入園式からバタバタとあわただしかったこと……10日後には親子遠足まであります。

歩いて5分程の幼稚園から帰るコースごとにグループをつくって自宅近くまで先生が送ってきます。二人づつ手をつながせるのですが「道路の右側よ!」とかチョコチョコと勝手に歩く子に「はみ出さないで!」と掛け声をかけて列の右左を走り回り玉の汗をかいていました。私も門から同伴して我子の一挙一動にヒヤヒヤしました。ただついて歩いてただけでしたのに、家に着く頃には汗ビッシヨリです。

小学生の低学年までこんな思いをすることでしょう。自分の幼かった頃が思い出されます。私もこうして親に見守られて育ったことに、あらためて感謝したい気持ちです。

さて、これで「毎日が日曜日」の生活とはおさらばです。こどもが小学、中学、高校……と成長すると共に同じような緊張や刺激を強いら

れるでしょう。しんどいけれど、生活にハリが出てよかったです。

ありがたや禁煙茶

山梨県甲府市

風間 ゆり

「オイお母さん、この広告見ろよ、これ本当ならおれも飲んでみるから、買ってきてくれ。値上り以来止めようと思ってたんだから……」と示された新聞折込みのチラシ、「禁煙茶」とありました。

ヘビースモーカーの我が家のティッシュですがこれが何と広告通り、数日飲んでピタリと禁煙できたのです。今までの禁煙の折(三度もやりかけ)と違って、禁断症状が全然ないと喜んでいたので、こちらもついのっちゃって「ついでに禁酒茶ってものも売り出さないかしら……」と言ってしまいました。

するとティッシュ殿、「その次はギンメン・チャって言いたいんだらう……」とギロリとにらみました。こちらもうやしいので小さな声で「その前にうんと生命保険かけなくちゃ……」って言ってやりました。



自立への道七転八倒の記

千葉県市川市

柳本 繪子

「駅前の飲み屋で飲んでいる時間があつたら病院へちょっと顔を出してあげても良かったじゃない／＼」「テメエー俺に命令する気か。飲むと飲むまいと俺の勝手だつ」

長男が肺炎で入院中、お互いに疲労が最高潮に達していたこともあって、派手な夫婦げんかの末、私の背骨の第三関節がズレてしまつて入院先の病院で治療を受ける破目になった。同室の付き添いのおばさんからは、アザだらけの私を見て、「かわいそうだ、かわいそうだ」と同情されるしまつ。私の夫婦げんかの末のケガはいつものことで、外科の先生からは「うまく逃げる方法を考えろよ」といわれているのです。

片輪にされてから、ボイじゃ救われない。二人の子供と心中もんだ。猛然とこの時、私も経済的に自立しようと決心した。私自身は精神的には夫から完全に自立しているし、自立してもらいたいのは夫の方なのだ。そう決心したら、かえって冷静になれて、看病のため保育困難という理由で、何度も何度も市の保育園に通い、押し問答の末、三歳の次男を保育園に預けることができて、それがきっかけになったのか、四月から入園することができた。それからいよ

いよ職捜しです。九時から四時迄で、家から近くて、ソロバンを必要としない仕事というところで「ガス配管の図面の整理、カード作成」という仕事を見つけたのだけれども、仕事の内容はパートの域を越え、配管図面を書くのに、記号、方式を覚えなくてはならず字はあくまでも細かく大変。私はやはりその資格を持つている栄養士の仕事にもどらうと決心。運良く以前から入っていた県栄養士会から、在宅栄養士が開業医の下で成人病の栄養指導をする仕事の勉強会に出ないかという誘いがあり、目下、土、日は講義に出席しているのだけれど、十年以上のブランクがあるので、講義内容はチンプンカンプン。学生時代のクセもよみ返り、舟こぐ仕末で、本当に職場復帰ができるのか少々心もとないけれど、やれるだけやってみよう。その後、夫との関係がどう展開していくのか、想像つかないけれど、私は歩きだしました。

“考えない主婦”も仲間です

大阪府泉南郡

桂 容子

いつも「わいふ」を楽しみに読ませていただいております。

家にいる主婦にとって本音を出し合える仲間なんて、本当に持ちにくいもの。近所の人達は

年令も近いし、子ども同志も遊び友達だったりして、とてもつき合いやすくていいのですが、やはり「ご近所づき合い」は互いに常に事なきを願う間柄、話す内容にも自然に範囲ができ上がります。

最近「地域社会を見直す」だのなんだのといわれていますが、地域社会ではやはり私はうちの主婦、夫に対する妻であり、子どもの母である、という役割を背負つてしか自分を表現できない。役割期待にがんじがらめにされて、はつと自分自身の息をつく場所がないような気がします。

そういう所では、やはり妻らしい行動、母親らしい発想で生活しないと異分子になるような気がして、（異分子としてやりぬく元気はないのです。周囲に同化した気持は人並み以上ののです）うっかり主婦として、不心得なことを言いはしないか、と少しばかり緊張している日々なのです。

不道徳な欲望、不穏な想念を払いのけて、日夜健全な家庭づくりにいそしめねばならぬ主婦は、どこまでも前向き、かつ地道、かつヒューマニストであらねばならないようです。とまり木に腰かけて一ばい飲んで、お酒の上でのこととして許し合った中で、時には非現実的なうわごとを吐き出したりできる人達とは違って、主婦はまず理屈に合い、かつ生活に即しているこ

とを求められています。夫も子どもも、家庭ごとく暮らした地域の中で、とても私のようにはみ出し人間は自分を解放できません。

だからせめて活字の上でも、出合いがほしいのです。もつとも「わいふ」誌の読者は、お利口主婦が多いようで、皆さん生活の向上に日々努めていらっしゃるようだけれども、時にはあまり切磋琢磨しないタイプの、こちらを疲れさせない投稿もあったりするので、やはり楽しみの一つです。

既成の価値観にとらわれないで、今後も自由な問い直し、思索の場として、考えない主婦も期待しております。

腹の立つこと

京都市伏見区

新栄奈良江

七十年代より八十年代に入って世の中に腹の立つことばかりが多くなり、何か大きな戦争の前ぶれじゃないかと心痛める日々である。

一番カチンと頭にきたのは、先達の京都国際会議場での〇〇経済会議の〇〇会長の発言。事もあるに「徴兵制」云々で、本当に背筋がぞうりと寒くなるのを覚えた。戦車、及び昔ながらの軍隊を見るような自衛隊。一体平和憲法はどこにあるのかしらと首をかしげる今日この頃、公での席上で、こんな発言が出るなん

て、財界のえらい人か何かしらないが、その良識を疑う。

発言した人は戦時中どんな生活をしていたのかしら？ 自分自身戦場へ行ったのかしら、「赤い紙」一枚で大切な夫、父、兄弟を連れて行かれた経験はあるのかしら、勝つと信じ、国のためという大義名分の許に、銃後を守った女の苦勞をどこまで知っていたのかしら。以上のことを経験もせず、お金の力で、闇物資で食糧の苦勞もせず、自分自身は見物で、軍需物資で太もろけた人なのであろう。

戦場で、シベリアで、戦災で亡くなった人のことを何と知っているのだろう。こんな発言をする人こそ、反って「英霊」は靖国神社に丁重に祀らなくてはならないと言っているのだらうと思う。終戦の時二度と次の時代は戦争に巻き込まれないようにと誓ったのじゃないかしら。終戦から三十年半ば過ぎたくらいで、「徴兵制」の発言の出る世の中、その根本は何なのかしら。さすが、自分自身戦場へ行った〇〇社長は反対の発言であった。

私は六十年安保の時、むつかしいことは、判らなかつたが、只々「二度と戦争を起してはならない」と、連日の如く反対デモに加わった。世の中は変わりつつあり、変わったとは言え、こんな発言の出る根本が恐ろしい。戦争は二度とくり返してはならない。そのくずれる第一歩が

徴兵制だと思う。

むずかしい特集？

宮城県仙台市

岩田真砂子（30歳）

お久しぶりです。と言っても誰も知らないでしょうけど。ハガキを書くのは久しぶりなものですから。

「編集だより」を読み、「おしゃべり」を読み感じたことがあります。というのは、特集投稿が少ないということ、「おしゃべり」の中のエリート云々ということ、意外に関係あるんじゃないでしょうか。

つまり特集が、多くの読者にウケていないということではないでしょうか。質やテーマが自然に解け込めない部分があると思います。それよりも気楽に自由にきりげなく、自分の意見を書けるおしゃべりに投稿が集まるのは、うなずけることだと思いませんか。

参加しやすいですわおしゃべりは。

子より親が先

東京都杉並区

西田 淑子

私のおけいごとに関する考え方というのは子供にお金を投じるのなら、自分に投じたい。

子供は子供だからという理由で、才能開発の場が成長までに、いたる所に用意されています。

足が速ければ陸上部が勧誘にくるし、絵がうまければ先生がコンクールに出してくれま

す。でも我々母親族は、積極的に出ていかない限り、誰も手を差し延べてくれないし、誰もほめてくれません。自分の中にあって、まだ何か才能が眠っているかもしれないのです。よしんば才能がなくとも、外の空気に触れて、お友達としゃべって、何かを作ってみることで、家庭内にとじこめられていた母親はどんなに息を吹き返すことでしょう。

今やカルチュアブームだと悪口を言われている母親のおけいこことですが、これまで四角い箱にとじこめて、諸雑務いつさい引き受けパターンを、美德として強いてきた時代を基準にしているからで、価値観など時代と共に変わっていくものだから、我々ももっと堂々と遊ぼうじゃないか、という気がします。

子供は何もお金を出しておけいこことをさせなくても、他に楽しいことはいくらでもあります。でも、我々はお金を出さなければ、家事と育児の世界から出ていけないのです。でも、そのお金を得ようと思えば、今度は暇がなくなるし、お金がなければ好きなこともできないし、どうしたらいいんでしょうね。

もっと大きな問題は、自分にとって何が好き

なことなのか分らない、という人が大ぜいいることで、才能は公平に分配されている訳ではないのですから仕方ないことですが、そういう人達も、二十年何か一つのおけいこことを続けたら、分らないと悩むこともなかったらうと思いますけどね。

吉田淳子様へ

東京都渋谷区

後藤 展子

おそらく、二十年近く先輩の主婦として、一言。私自身の悔恨もこめて。

少し位無理をしても何かなさいます。何をするかは、御自分の性格をよく考えて、楽しくできることをなさいます。そして途中で、くじけそうになっても、細々とでも続けること。若いうちに始めなさいませ。

経済の点は、周囲をよく見れば、市役所区役所など、安くお習いできる会があるそうです。経済のこと、家族のこと、御自分のこと、八方目を配りながら、それでも何かをお始めになることをお勧めいたします。

自分で生きがいを探索しよう

東京都多摩市

多賀 幹子

吉田淳子さんの「サラリーマンの妻は……」

(一六四号)を読んで、いくつか思いついたことがあります。

まず、確かに、子供さんが小学三年と幼稚園の年長なのですから時間的なゆとりはできてきたと思います。それで何か習い事をしたいのだから高い月謝は払えないと言われますが、そんなに高い月謝を払わないですむ、公的な機関、つまり国や県や市が主催する婦人学級、成人大学、趣味の集いや講習会を利用してはいかがでしょう。何も有名なカルチャーセンターに通わなくても、もっと身近で手軽なこういった機会をぜひ利用されることをおすすめします。

また、「子供のおけいこ代で主婦の分まで廻ってきません」と書かれています。親は子供よりさきに死んでいく存在です。子供には子供の人生があるはず。子供が本当に自分のやりたいことを発見した時、自分の稼いだサラリーでそれをして、決しておそくはないでしょう。

内職については、グループならいいけれど、お宅一軒だけでは、と断わられたとのこと。内職といってもさまざまな職種があつて、それがすべてグループでやらなくてはいけないわけではないでしょう。本当にやる気があるのなら、何かの資格をとられると、見つけやすくなるかもしれません。

余暇ができた主婦に限らず、すべての人

がみな、私も含めて、自分の生きがいを探索しながら、毎日を生きているのではないでしょうか。

まず、動き出してみることです。

吉田さんも頑張ってください。

帰ってきた カレーライス

茨城県猿島郡

野口 欣子

「カレーライス」は私の人生の歩みを一番よく語りかけてくれるものなのです。

長男が生まれたのが二十三年でしたから食糧事情も悪く、子供達にとって「カレー」は最高の御馳走でした。私は、子供達の笑顔に励まされて幼い頃は仕上げにお砂糖を入れた甘くて美味しいカレーを、小学生になってからは中辛のカレーを、そして鳥ガラでスープを作り何時間もかけてルーを作り、料理の本を片手に本格的なカレーを作ったのは、子供達が中学生になってからでした。

その時主人に「や々とカレーらしくなったね」と言われ、「これが我が家の歴史の味よ」と笑ったものでした。

「おばさん、これバッグンに美味しいよ」なんてお世辞を言われて大なべに作ったカレーがあつという間に無くなつてしまった高校生の頃……。

「お母さんが作るようなカレーどこへ行っても食べられないんだよ。次の日曜日に帰るから頼むね」舌なめずりしているみたいな声で下宿先から電話をかけてきた大学生の頃……。子供達が独立して、二人きりになった我が家の食膳に刺激の強い「カレー」の姿が消えてから、もう何年も過ぎてしまいました。

しかし最近週に一回位孫達と夕食を共にするようになってから、お兄ちゃんが、「ボクはカレー//カレー//」と弟まで「カエー、カエー」というわけで我が家にカレーの姿がみられるようになったのです。それで私は柔らかいとり肉を小さく切り、野菜もやわらかくして甘いカレーを作るようになりました。

バンザイノ帰ってきたんです。「カレー」がまた私の手に……。

昨夕も他の大人共は別な御馳走を食べているのに二人の孫と私はカレーを食べました。二人は足をバタバタさせながら美味しそうに、私は懐かしい昔の味をかみしめながら。

「おばあちゃんのカレーを食べに来たよ」と孫達がお友達と遊びにくる日のために、これからおばあちゃん頑張りますよ。

面白かった立身出世談

神奈川県鎌倉市

I・M

立身出世談というものは、ふつうあんまり面白くないみたいです。でも最近読んだゴーマン美智子の「走れノミキ」には思いがけないほど感動してしまいました。

この人がボストンマラソンに優勝した写真を見たとき、何だか二世らしくない人だなアと思ったのですけど、やっぱり日本からアメリカへ行ったばかり(でもないかなア)の生粋の日本人でした。ベビーシッターとしてアメリカ人の家庭に住みこんで、速記の学校へ通わせてもらった、いわば苦勞話から始まってるんですが、その中に、戦後アメリカへ行った「ビンボーな日本人」が味わるカルチュアギャップみたいなものがほんとによく描かれていて、一種の語られざる戦後史みたいになっているところが私には一番面白かったです。

アメリカについて私たちはずいぶんいろいろ読んだり聞いたりしていますけど、この本読むと改めて、女の目から見たアメリカが、浮き上がってきます。そして矢張り感心するのは、ゴーマンさんのガンバリノ、これはもうすごいものでした。



◎一六七号投稿募集

167号の特集テーマは「主婦の近所づきあい」です。

戦争前には、農村でも都会でも、近所づきあいのルールというものがあまして、守らなければ村八分にもなりかねない一方、守っていさえすればよい気は使わなくてすみました。

ところが戦後三十五年経った今では、古いルールは雲散霧消、新しいルールは一向に出現しないという状態で、しかも民族大移動ともいふべき人口の都市集中が起り、団地とよばれる共同住宅や、壁を接する過密住宅街、話し声がつつぬけの民営アパートなど、とかく人間関係がとんがりがちな生活を、多くの人が強いられています。

とくに主婦は近所づきあいの担当者とみなされ、トラブルを一身に引き受けさせられる。

核家族であれば、家庭内は一種の無風地帯ですから、外の風当りがことさら主婦の身にしみるのかもしれませんが、後向きになってヤドカリのように、カラに閉じこもるのもさびしいことです。人間的成長も望めません。むずかしい近所づきあいの中から、どのように新しい人間関係をつくっていったらよいでしょうか。痛切な体験と、前向きの智慧をお寄せください。

締切 八月二十日

「わいふ」を取扱っている書店

- | | |
|---------|----------------|
| 模 索 舎 | (東京都新宿区新宿二一四一) |
| 神田ウニタ | (千代田区神田神保町) |
| 山下書店 | (小田急線千歳船橋) |
| カナリヤ書店 | (世田谷区桜丘三丁目) |
| 一天堂 | (日野市百草団地内) |
| 高幡啓文堂 | (高幡不動駅前) |
| 府中啓文堂 | (京王線府中駅前) |
| ペリカン書房 | (府中市北山町) |
| まゆみ書房 | (昭島市) 青梅線東中神駅前 |
| フタバ書店 | (千葉県東武野田線増尾駅前) |
| 三 芳 堂 | (長生郡一宮町) |
| 書苑西白井店 | (印旛郡白井町) |
| れんたるぼく | (鎌ヶ谷市道の辺) |
| サカエ書店 | (神奈川県伊勢原市) |
| フジブックス | (横浜市磯子駅前) |
| 黒 田 書 房 | (埼玉県三郷団地北地区) |
| 秀栄堂書店 | (センタージョップ) |
| 名古屋ウニタ | (名古屋市中千種区堂王通) |
| 札幌ひらひら | (札幌市北区北十八条) |
- 模索舎は、ミニコミを扱うユニークな書店です。わいふは東京発刊最初の二三八号から入りました。一度おのぞきになっては？
- 新宿三丁目交差点新宿御苑側を、四ッ谷方向へ進み、ホテルラシントンパレス脇を入って左側。定休なし十一時～十九時まで

投 稿 規 定

- 予約購読者はどなたでも投稿できます。
- (一) 随筆
 - ことに生活実感のあるものを歓迎いたします。(千二百字前後)
- (二) 対話のページ(エコー)
 - わいふ誌上の投稿、記事についての感想、反論、批判など。(千二百字前後)
- (三) おしゃべり
 - おたよりその他、何でも自由に。(八百字前後)
- (四) 特集テーマ原稿
 - 以上締切日・偶数月の十五日募集欄でお知らせいたします。(千二百字前後)
- (五) 持ちこみ原稿
 - 評論、問題提起、ルポ、文芸など。長さは自由です。締切なし。
 - 誌上匿名は可。ただし投稿には住所氏名を明記してください。
 - お便りを掲載ご希望でない方は必ず「私信」とお断り下さい。

編集だより

★吉屋信子の「良人の貞操」が発表され、ベストセラーになったのは昭和十一年のことです。

夫が愛人を持って子供が生まれる。その愛人は妻の親友。妻は悩みつづ子供を引きとり、愛人は身を引くという筋立て。

今回の特集投稿を見るに、昭和初年と同じく妻は夫の貞操に寛大です。ドウシテでしょう？これは皆さん、じっくり考えるべきことですよ。座談会「男の特権・不貞」をどうぞご参考に。

★コミック・ライブラリー、いかがですか。

以前「わが家はパラダイス」と称してみなさんのご家庭内でおこったユカイな話を募集し、二三篇ご応募をいただいたのですけれど、どうもこういうのは視覚に訴えないとおもしろくないようで、漫画でやってみることにしました。

どうぞ画になりそうなおもしろい出来事をお寄せください。

★汽車に乗ってほるばる行くつもりが、なんと日野市と世田谷区になったのが無農薬農場ルポ。燈台下暗し、どうしてこんな町中にあるのかとおどろきました。農地の宅地なみ課税という話が出ていますが、野菜は新鮮さが命、消費者と直結する近い場所、生産されるのがほんとうかもしれせん。これ以上東京を大きくす

るより、人口の分散、都市計画の抜本的見直しが必要ではないかしら？でも「ソリヤ革命だよ」と言った人がいました。いったいどうしたらいいののか、「こわい野菜？」の取材では際限ない矛盾に突き当ります。

★前ページのリストでごらんのとおり、わいふを扱ってくれる本屋さんが増えています。一人でも多くの方に「わいふ」を知っていただくために、みなさんお近くの本屋さんをお願いしてくださいませんか？くわしくは編集部へお問い合わせを。（おハガキをくださればこちらからお電話します）

★おわびと訂正 一六四号「わいふインタビュー」6ページ上段にまちがいがありました。「断崖絶壁に巣作りするウミアラシ」ではなく「ウミガラス」です。

高野伸二様からご注意があり、まことに恐縮しております。

★横浜サークルでは、「私にとつての性差別」というテーマで公開討論会を開きました。

その資料として、サークルのメンバーが自分たちの体験など書き綴った小冊子をつくったので、ごらんになりたい方がありましたら実費でお送りするそうです。

連絡先〇四五—八四三—四七三一 井上桂子

■購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバ
ーのご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

わいふ

165号

1980年7月25日発行

編集・わいふ編集部

印刷・浩文社印刷

定価 350円

(年間購読料送料共2520円)

発行所・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4☎162

T E L (03) 260-4771・269-2388

振替郵便 東京5-110430

銀行口座三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4315635

(隔月刊)

■購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

母性をとおして見つめた女の生き方の書！

母性をひらく

木村 栄著 好評増刷！

主婦・母親のだれもがぶつかる子育てや共働きの悩み・苦しみ。そのなかで女が人間として自立し、喜びをもつて生きたいという願いは、どうすれば実現できるのか。女自身が変えることによって、社会も家庭も変わりうることを、自らの体験から語りかける。

1200円

『わいふ』書評より

「まず、子供をかかえ、出口を求めている女性達に、さらにこれから結婚し、子供を産もうとしている女性達に、現在、仕事と母性の両立に苦しんでいる女性達に、すべての女性達に読んでもらいたい本の一冊である。」(二六四号)

はだしのゲン

児童文学版

深沢一夫著／中沢啓治原作 戦争と原爆の真実を描いた話題のベストセラー、漫画『はだしのゲン』が児童文学版になりました。子どもたちの豊かな感性と想像力を育くみ、深い感銘をよぶことでしょう。

A5判・980円

はだしのゲン

絵本版

中沢啓治え・文 戦争の悲惨を子どもたちにわかりやすく伝え、そして何よりも主人公・ゲンの勇気、優しさ、正義感あふれる姿は、子どもたちの胸にも鮮烈な感動を与えずにはおかないでしょう。

A4判・4色刷・1200円

はだしのゲン(コミック版・全7巻 各600円)

一〇〇万部突破記念フェア開催中

汐文社

東京都文京区本郷1-26-10
TEL.03-815-8421

8月号 発売中！ 480円 毎日新聞社
(毎月15日発売)

月刊 森の教育

特集1 危機に立つ 日教組

■権力と闘った仲間とは切り棄てられた

北村小夜

■分裂の危機からどう立ち直れるか

河島 肇

■80年代の教育労働運動に求められるもの

檳枝委員長 インタビュー聞き手 村松 喬

魚津だより ③山菜と魚の町 池田弥三郎

連載 「森の漫画教室」……… 大下健一

特集2 通信簿が 変わった！

■通信簿の移り変わり……… 名取弘文

■『長崎戦争』の実情……… 岡村達雄

■長野県の通信簿のない学校……… 片岡成登

明治35年、アイスクリームから始まって。

新橋から銀座へ流れる耳かくし

数寄屋橋から銀座へあゆむ真知子巻き

はなやかなそぞろ歩きの足並みを

8丁目でちよつと、

ちよつとひと息入れさせて。

初めはソーダファウンテン

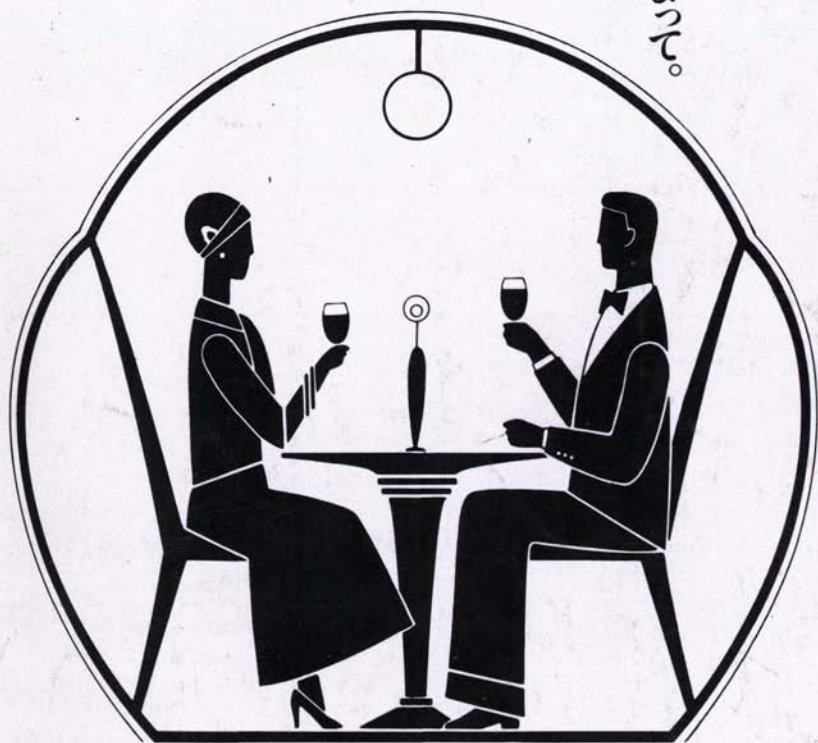
やがて粋なフランス料理も

なんとも優雅な味覚

育て守りつけて70年以上

パーラーは、

銀座の風物詩となりました。



西洋料理70年 資生堂パーラー

本店 ● 〒104 東京都中央区銀座8-8-3 TEL(03)572-2121代

玉川高島屋店 ● 〒158 東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋1F・6F TEL(03)709-3111代

原宿店 ● 〒150 東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿2F TEL(03)475-0438

札幌店 ● 〒060 札幌市中央区南大通り西1-13 マルサ8F TEL(011)213-3610

松屋店 ● 〒104 東京都中央区銀座3-6-1 松屋8F TEL(03)567-1373